

平成29年度 海外研修事業報告書

第17回ベトナム社会主義共和国派遣



ハノイ市・一柱寺にて

Hanoi, Ho Chi Minh, Socialist Republic of Vietnam

研修期間：平成29年7月22日～7月29日

協力：Hanoi Industrial Vocational College

Vietnam-Japan Human Resources Cooperation Center

公益社団法人 全国工業高等学校長協会

国際化事業推進委員会

目 次

1. はじめに	2
2. 第17回高校生海外研修実施要項	3
3. 海外研修日程表	5
4. 海外研修 結団式・事前研修	6
5. 海外研修での挨拶	7
6. 海外研修の概要	7
7. 生徒の報告	12
8. アンケート結果	49
9. 結びに	56



1. はじめに

国際化事業推進委員会委員 鴻 野 誠
(東京都立中野工業高等学校長)

全国工業高等学校長協会主催による第17回高校生海外研修は、平成29年7月22日(土)から7月29日(土)までの8日間で、昨年度に引き続きベトナム社会主義共和国において実施しました。

この研修は、工業高校において国際感覚を身につける教育が求められる今日の社会状況に鑑み、工業教育の活性化を図り、かつ将来国際社会で活躍する人材を育成することを目的に行われています。本研修の歴史を振り返ると、平成8年の文部科学省の支援によるアメリカ・ニューヨークに生徒・教員を派遣したことを起点に、以下の通り実施してまいりました。

- 1 第1回から第10回まで オーストラリア 平成13年度から平成22年度まで
- 2 第11回から第15回まで アメリカ・カナダ 平成23年度から平成27年度まで
- 3 第16回から ベトナム 平成28年度から

今回は、訪問国をベトナムに変更して2回目の研修となり、昨年度の研修の成果や課題を踏まえ、研修全般における内容を再検討しました。研修を計画する上で、ベトナムの政府、教育、公共施設、企業等、関係機関への訪問について綿密な連絡調整を行い、実施に向けて準備しました。また、亜熱帯地域であるベトナムの気候、交通事情、食事、休息等、生徒が安全かつ健康な状態で研修を進められることを考え、研修先の予定や時程を計画しました。

ベトナムは、現在、日本をはじめとする多くの諸外国との連携を積み重ね、目覚ましい経済発展を遂げている国です。日本との両国間において、ホーチミン市では地下鉄の工事等、インフラ整備を進め、首都ハノイの教育機関では、日本の工業技術や技能検定制度を採り入れる試み等、経済・技術・教育面での連携協力が進んでいるところです。そして、この国の発展の原動力は、国民の平均年齢が若く、労働人口が極めて多いことにあり、持続的に国の発展を支えています。

今回、参加した生徒は、学校の先生方のご指導や保護者の方々のご理解があった上でこの研修が実現したことをよく理解し、また、「なぜ、ベトナムか？」という大きなテーマをもとに、全国から選ばれ日本を代表して訪問するという自覚と責任をもって研修に臨むことができました。団体行動を重視し4班編成による班行動を取るとともに、研修先での見聞をメモや記録に残し、毎日の報告書にまとめ、ベトナムをつぶさに学びました。同時に引率教員がその研修の様子を開設したブログを通して学校や家庭及び関係機関に発信しました。

8日間にわたる研修は、事故や怪我、トラブルもなく全日程を計画通り全員で参加でき、その目的は十分に達成できたことと思います。参加したすべての生徒の目的意識の高さとチャレンジ精神に敬意を表し、「18歳以下、日本代表」の皆さんに感謝申し上げます。

本報告者は、研修に参加した生徒がベトナムで学び感じたことを自らの考えと言葉で表しまとめた報告書と、研修後に生徒から集めたアンケート結果を掲載しています。関係の皆様方には、ご覧いただき、生徒が研修で得たものを感じていただければ幸いです。

最後に、ホーチミンの日系企業の副社長の言葉を今一度、かみ締めてください。

「我が社が世界共通の乳酸菌飲料の代名詞として確固たる信頼と評価を築いた理由は「掃除」である。メンテナンスは世界一と評価されている。海外に進出するなら「5S」整理・整頓・清掃・清潔・しつけをしっかりと継続すること。古くからある伝統を重んじ、日本のスピリットをもつこと。」

今回海外研修に参加した生徒は、全国から選ばれた工業高校生です。今後、今回の研修の成果を学校・都道府県等で発表や報告を行い、広く全国の工業高校生に還元していただくことを期待しています。また、この経験をもとに将来、諸外国との友好な関係を築き国際社会に貢献し、日本の未来を切り開いていく人になることを願っています。

結びに、本研修を実施するにあたって、ご支援・ご協力いただいた関係の皆様方に御礼申し上げ、ここに報告いたします。

2. 第17回高校生海外研修実施要項

① 第17回高校生海外研修実施要項

1 目 的

国際化時代を迎え、工業高校においては国際感覚を身に付ける教育が求められている。このような社会状況に鑑み、本協会では工業教育の活性化を図る事業の一環として本研修を実施する。

2 期 日

平成29年7月22日（土）～7月29日（土）の8日間

3 研修地

ベトナム社会主義共和国（ハノイ市、ホーチミン市、等）

4 研修内容

現地学生との交流、学校視察、企業見学、技術交流、等

5 宿泊先

ホテル（ホーチミン市内、ハノイ市内、ハロン湾近郊）

6 経 費

（1）自己負担

① 参加費 3万円

② 自宅と成田空港間の交通費、パスポート申請料、燃油サーチャージ、空港使用料、任意の海外保険等は、自己負担とする。

（2）補 助

① 国際線の航空運賃及び現地の交通費、宿泊費、食費等は、全工協会が補助する。

② 遠方からの参加者には成田空港までの往路に関わる交通費の一部を全工協会が補助する。

7 参加条件

次の（1）～（3）をすべて満たす生徒

（1）全工協会の会員校に所属し、学業・人物ともに優秀で、所属校長と地区代表校長の推薦する生徒

（2）他の海外研修等に参加した経験のない生徒（修学旅行を除く）

（3）国際的な感覚を身に付け、今後の学校生活に意欲をもって取り組める生徒

8 参加人員

24名（生徒22名、引率2名）

<9地区ブロックの生徒推薦枠>

北海道1、東北3、関東4、北信越2、東海3、近畿3、中国2、四国1、九州3

引率は全工協会から委嘱する。

9 推薦手順

参加希望者は「海外研修参加申込書」と「参加理由書」（A4用紙800字程度）を所属校長へ提出する。

所属校長は地区代表校長の推薦を得て書類を全工協会へ提出する。

※「海外研修参加申込書」と「参加理由書」の様式は本協会HPからダウンロードする。

10 応募締切 平成29年5月19日（金）厳守（消印有効）

<応募書類提出先・問い合わせ先>

公益社団法人全国工業高等学校長協会 事務局長 山田勝彦

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-8-1

TEL 03-3261-1500 yamada@zenkoukyo.or.jp

② 第17回高校生海外研修における教員参加実施要項

生徒海外研修実施要項の項目「1～6、10」を準用し、「7～9」は、次のとおりとする。

7 応募条件

会員校の教員（校長の推薦する者）

8 募集人員

若干名（教員枠は、参加生徒数が定員に満たない場合に、定員（22名）から生徒数を引いた数とする。ただし、生徒の定員が満たされた場合は、教員枠は「0」とする。）

9 推薦手順

- （1）希望者は生徒用の「海外研修参加申込書」並びに「応募理由」（A4用紙800字程度）を本協会HPよりダウンロードした用紙に記入し校長を通して提出する（保護者氏名、学年等について不必要な箇所は削除し、生徒氏名は応募者氏名とする）。
- （2）校長から推薦された希望者を委員会で書類選考して、校長を通して連絡する。

9 応募手順

- （1）参加希望者は、生徒用の「海外研修参加申込書」並びに「参加理由書」（A4用紙800字程度）を作成し、所属校長を通して全工協会へ提出する。
- （2）書類の様式は、本協会HPよりダウンロードする。保護者氏名・学年等の不必要な箇所は空欄とし、「生徒氏名」は「教員氏名」とする。
- （3）校長から推薦された候補者を国際化事業推進委員会で選考して、所属校長へ通知する。

※その他

- （1）現地では引率者の指示に従い、生徒と同じ日程で行動する。
- （2）帰国後、各自報告書（全工協会指定の形式）を提出する。

<応募書類提出先・問い合わせ先>

公益社団法人全国工業高等学校長協会 事務局長 山田勝彦

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-8-1

TEL 03-3261-1500 yamada@zenkoukyo.or.jp

3. 海外研修日程表

月日	曜日	発着地・滞在地	現地時間	交通機関	行動予定・宿泊	食事
7/22	土	成田空港 レストハウス	15 : 00 15 : 30 17 : 45	各自	前日集合 結団式・事前研修 〈レストハウス泊〉	夕食
7/23	日	レストハウス発 成田空港発 ホーチミン着 ホテル着	07 : 00 09 : 30 13 : 15 16 : 00	専用車 VN301	空港第1ターミナルへ移動 出国手続き 入国手続き、市内見学（サイゴン大 聖堂、統一会堂等） 〈ホーチミン泊〉	朝食 機内 夕食
7/24	月	ホーチミン市 ホテル着	午前 午後 16 : 30	専用車	企業見学（ヤクルト） 平和学習・戦跡見学（クチトンネル 等） 〈ホーチミン泊〉	朝食 昼食 夕食
7/25	火	ホーチミン市 ホーチミン発 ハノイ着 ホテル着	午前 午後 17 : 10 19 : 20 20 : 30	専用車 VN262	ホーチミン貿易大学の学生との交 流（VJCC（ベトナム日本人材協力 センター）訪問） ハノイへ移動 〈ハノイ泊〉	朝食 昼食 夕食
7/26	水	ハノイ市 ホテル着	午前 午後 16 : 30	専用車	工業系大学等の見学（Hanoi Industri al Vocational College） ベトナム学生との交流（B & S （Brother & Sister）プログラム） 〈ハノイ泊〉	朝食 昼食 夕食
7/27	木	ハノイ近郊 ハロン湾 ホテル着	09 : 00 13 : 30 16 : 30	専用車	見学（ハロン湾クルーズ） 〈ハノイ泊〉	朝食 昼食 夕食
7/28	金	ハノイ市 ハノイ空港着	午前 午後 21 : 00	専用車	市内見学（ホーチミン廟、文廟、ホ アンキエム湖等） 異文化交流（バッチャン焼き絵付体 験） 出国手続き	朝食 昼食 夕食
7/29	土	ハノイ発 成田空港着	00 : 20 07 : 00 08 : 00	VN310	〈機中泊〉 入国手続き 事務連絡、解散	機内

4. 海外研修 結団式・事前研修

日 時：平成29年7月22日（土） 15：30～17：30

会 場：成田エアポートレストハウス ブルースカイの間

結団式：司会（全国工業高等学校長協会事務局長）

山田勝彦

- 1 開式の言葉 国際化事業推進委員（埼玉県立三郷工業技術高等学校長） 山本康義
- 2 挨拶 ①全国工業高等学校長協会 理事長（神奈川県立神奈川工業高等学校長） 後藤博史
②団長・国際化事業推進委員（東京都立中野工業高等学校長） 鴻野 誠
- 3 引率者紹介 ①団長・国際化事業推進委員（東京都立中野工業高等学校長） 鴻野 誠
②引率（愛知県立豊田工業高等学校 教諭） 小笠原裕文
③添乗員（日通旅行株式会社） 岩崎明美
- 4 参加生徒自己紹介
- 5 生徒宣誓 宮城県工業高等学校（インテリア科 3年） 生徒
- 6 閉式の言葉 国際化事業推進委員（千葉県立市川工業高等学校長） 野崎一哉
- 7 写真撮影
- 8 事前研修 ①日程及び内容説明 ②ブログの開設 ③報告書作成
④ベトナムの状況 ⑤全般的な諸注意 ⑥その他
- 9 出席者 参加生徒（下表参照）及び保護者
国際化事業推進委員会：笹原哲也、野崎一哉、山本康義、鴻野誠（引率）
引率者：小笠原裕文 理事長：後藤博史
事務局：山田勝彦事務局長、石井末勝事務局次長
旅行業者：鈴木 寛、岩崎明美（日通旅行株式会社）

参加生徒22名

都道府県	学校名	都道府県	学校名
北海道	苫小牧工業高校	愛知県	名南工業高校
青森県	弘前工業高校	三重県	桑名工業高校
宮城県	宮城県工業高校	大阪府	大阪市立西高校
秋田県	能代工業高校	大阪府	今宮工科高校
千葉県	東総工業高校	奈良県	奈良朱雀高校
東京都	多摩科学技術高校	岡山県	岡山工業高校
神奈川県	藤沢工科高校	山口県	下関中央工業高校
山梨県	韭崎工業高校	愛媛県	松山工業高校
石川県	石川県立工業高校	長崎県	島原工業高校
福井県	武生工業高校	熊本県	球磨工業高校
静岡県	科学技術高校	大分県	中津東高校

5. 海外研修での挨拶

1 結団式での生徒宣誓

宮城県工業高等学校
インテリア科 3年 生徒

宣誓 全国工業高等学校長協会主催「第17回高校生海外研修」の参加にあたり、参加者を代表して宣誓します。

私たち22名は、日本の工業高校生の代表としての自覚を持ち、現地の人やとともに研修する仲間との交流を通してコミュニケーション能力を高めるとともに、ベトナムの歴史や文化・技術を体験し、国際感覚を身に付けたいです。また、現地の人に日本の良さや文化の違いを伝えたいです。

この8日間の研修はとても刺激的な体験が待っています。ですが、そのことに臆することなく、ひと回りもふた回りも成長するため何事にも積極的に取り組み、沢山のことを吸収し、この場に戻ってくることを誓います。

以上で結団式での生徒宣誓とします。



6. 海外研修の概要

第17回海外研修団長 鴻野 誠
(東京都立中野工業高等学校長)

1 はじめに

今年で17回を迎える高校生海外研修は、昨年度から派遣先をベトナムに変えて2年目になる。昨年度の成果と課題を踏まえ、研修日程・活動内容を一部改善し、ホーチミン、ハノイでの研修に加え、世界遺産のハロン湾見学を組み込み、ベトナムを多角的に学ぶ研修とした。

目覚ましい経済発展を遂げているベトナムをじかに見て学ぶと共に、その背景にある両国間の官民を通じた連携を確認し、ひいてはアジアはもとよりグローバルな視点に立った持続的な経済連携を進めていくことのできる、将来のリーダーを育成する事も本研修のねらいである。

この研修での経験が将来のアジア、世界で活躍するグローバルなテクニカルトップリーダーを育成するきっかけになることを期待する。

2 研修参加者の構成

参加生徒は3年生9名（男子4名・女子5名）、2年生11名（男子7名・女子4名）、1年生2名（男子2名）の合計22名であった。

他に引率者として、国際化事業推進委員会から鴻野誠、リスニング英語検定委員会から小笠原裕文教諭(愛知県立豊田工業高等学校)、事務局から山田勝彦事務局長の3名と添乗員が1名同行した。

3 活動内容

1日目【7月22日(土)】

成田エアポートレストハウスに15時に集合し、15時30分から結団式及び事前研修を行った。結団式は、全工協会理事長、国際化事業推進委員、事務局、保護者も参加し、

緊張感のある中で行われた。理事長の挨拶に始まり、研修参加生徒の自己紹介、生徒代表宣誓、記念撮影を行った。

結団式終了後は事前研修に入り、全日程の確認、諸注意、班編成等を進め、生徒間のコミュニケーションを図り、研修への参加意識は一気に高まった。



結団式後の集合写真(レストハウス玄関)

2日目【7月23日(日)】

6時30分に朝食を済ませ、7時にホテルを出た。成田空港第1ターミナルでチェックインし、9時30分にベトナム航空直航便VN301便で、空路ベトナム・ホーチミンへ出発した。

ホーチミンの空港には定刻通り無事到着した。その後、専用バスで市内見学を行い、統一会堂(元大統領官邸)、聖母マリア教会、中央郵便局、人民委員会、水上人形劇等を見学した。市内は大変蒸し暑く、時折雨が降っていた。



統一会堂の噴水広場



中央郵便局



市内の看板

3日目【7月24日(月)】

午前は日系企業であるヤクルトの工場視察を行った。副社長の挨拶とプレゼンテーションに始まり、研究室、工場を視察した。質疑応答では多くの生徒から質問が出された。副社長からは、ヤクルトが世界共通の乳酸菌飲料メーカーとなった理由は、日本のスピリットを持ち、「5S」を浸透させ、掃除やメンテナンスを徹底する事で信頼と評価を確実なものにした、という話があった。

午後はバスで約2時間を移動し、ベトナム戦争の戦跡の一つであるクチトンネルを視察した。クチトンネルは、約20年をかけて作られた深さ最大20メートルにもおよぶ三層構造のゲリラ戦の行われた基地であり、トンネル内は当時内径が80センチ程で、その総距離は250kmに達する。生徒はトンネル内の移動を体験し、トンネルの狭さや暗さ等、戦争の恐ろしさを実感した。



日系企業ヤクルト視察



戦跡クチトンネル

4日目【7月25日(火)】

午前、VJCC(ベトナム日本人材協力センター)を訪問した。この機関は日本とベトナムの両国政府の合意のもとに設立された人材育成機関である。センター職員からの挨拶、ベトナムの学生と互いに自己紹介の後、日本から持参した竹トンボを一緒に飛ばし交流を図った。その後、ベトナム民謡のレクチャーを受け、グループごとに合唱した。生徒は積極的に話しかけ、笑顔で楽しく交流していた。

その後、歴史博物館を見学した。チャンパ文化等の歴史を振り返るエリアと、ベトナム、アジアの特色文化等のエリアを見学した。

ホーチミンでの最後の昼食を済ませ、予定よりも早く空港に到着した。夕方、ハノイに移動し、空港で夕食をとり、ハノイ市内のホテルに無事到着した。



VJCC玄関にて



ディスカッション

5日目【7月26日(水)】

午前はHNIVC(ハノイ工業職業訓練短期大学)を訪問した。交流式典では両国からの挨拶、自己紹介で始まり、現地学生から、歌、演奏、

竹を使ったアトラクションで歓迎を受けた。生徒は竹トンボの飛ばし方を現地学生に説明して、屋外で一緒に飛ばした。10メートル以上あがる竹とんぼに歓声が沸き起こった。相互に溶け込み交流は有意義であった。その後、大学側と昼食を共にした。「今後も両国の夢の懸け橋となるこの交流を継続して行きましょう」と約束し、視察先を離れた。

午後はB&Sプログラムを行った。市内から日本語を勉強している8人の学生が加わり、自己紹介、グループディスカッションから始めた。相互に慣れ親しんだところで、バスでベトナム最大規模のショッピングモール「イオン」に移動した。生徒たちは4つのグループに分かれて学生とのコミュニケーションをとりながら、買い物や食事等を楽しんだ。



交流式典後の集合写真



竹とんぼを飛ばす



B&Sプログラム

6日目【7月27日(木)】

午前1時30分頃ホテルで非常ベルが鳴った。引率者で状況確認をしたところ誤報と分かり大事に至らなかったが、一瞬緊張が走った。生徒の部屋に誤報である旨の説明に回っ

たが、ほとんどの生徒は寝ていた。引率者として、海外での緊急事態に対する危機管理意識の重要性を痛感させられた出来事であった。

7時50分にホテルを出発して4時間、世界自然遺産ハロン湾に到着した。その面積は大阪府の面積とほぼ同じで、日本の松島や中国の桂林を連想させる。湾内を約3時間の貸し切りクルーズで食事をしながら絶景を楽しんだ。その後、鍾乳洞を見学した。日本の鍾乳洞と異なり、地上40メートルほどの山を登った中腹にある。生徒は全員蒸し暑い山道を歩ききり、鍾乳洞を見学できた。



世界遺産絶景ハロン湾

7日目【7月28日(金)】

午前ハノイ市内視察を行った。最初に文廟を見学した。孔子廟である文廟には、敷地内にベトナム初となる大学の国子監が設置されていたため、学問のご利益があるとされている。科学の合格者の名前が雌の亀の石碑に名簿として残されていた。続いてホー・チ・ミン廟を視察した。ホー・チ・ミンはベトナム革命の指導者で、「建国の父」として知られ、市民からは親しみを込めて「ホーおじさん」と呼ばれている。その後、徒歩で大乘仏教のお寺一柱寺を視察した。この日は非常に気温・湿度が上がり、昼食後、予定を一部入れ替えてバッチャン村に向かった。バスで40分程移動し、バッチャン焼きの絵付け体験を行った。千年の歴史があり、バッチャンの「パッ」は入れ物「チャン」は地名である。バッチャン焼きは1300度で焼くので陶器でなく磁器であり、厚みがあり重たく割れにくい。

生徒は今回の研修を振り返るように思い思いの絵を描いていた。



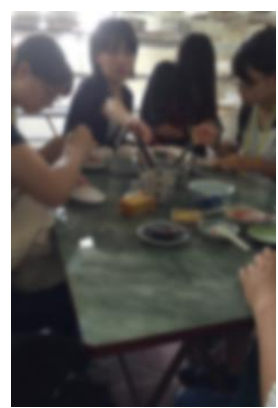
文廟



ホー・チ・ミン廟



一柱寺



絵付け体験

その後、再びハノイ市内に戻り、ホワンキム湖を視察した。この湖は、明の侵略を受けた王朝が、湖の亀からもらった刀のおかげで勝利し、お礼に刀を湖の亀に戻したという逸話があり、「刀を返す湖」として市民の憩いの場として愛されている。ホワンキム湖に浮かぶ玉山島にある玉山祠にも足を運んだ。

その後、チャイナタウンを散策し、市内ホテルで最後の夕食を済ませ空港に向かった。



ホワンキム湖



チャイナタウン

8日目【7月29日(土)】

ベトナム国際空港を午前0時40分に出発し、ベトナムでの7日間にわたる研修を終え、一路成田空港に向かった。同日午前7時25分には、我々を乗せたVN310便は定刻通りに到着した。入国審査を通過し、到着ロビーに集まった生徒は、充実した研修に対する満足感と無事帰国した事による安心感で笑顔があふれていた。最後に解団式を行い、生徒達は8日間を共にし、大成功に終わった研修の成果を讃え合い、また会う事を約束してそれぞれの家路についた。

5 おわりに

今回実施した第17回高校生海外派遣研修は、全国から選ばれた22名の生徒が研修の目的を理解し、個々が自覚と責任をもって参加した結果、大きな事故・けが・トラブルもなく、全日程を全員でほぼ予定通り参加できた。生徒の健康面を配慮し、研修内容の調整や研修先の移動等、日々の天候、生徒の負担を考え実施でき、研修の目的は十分に達成できたと考える。

研修期間中は、4班編成で班長を中心に点呼を徹底し、規律ある行動ができた。生徒には一日の日程や視察先で受けた説明のメモを取らせ、一日の研修記録としてまとめたものを夕食後に班ごとに提出させた。ノートは引率者が点検し、コメントを加えて返却することで、生徒の感じたことや健康状況を把握することができた。

ベトナムの歴史は、中国、王朝時代、フランス、アメリカ等と、世界で一番戦争が長く続いた国と言われている。今回の研修では、日本の技術提携で地下鉄工事等インフラ整備を進めているホーチミン、日本の技能検定制度の導入を進めるハノイを訪れ、目覚ましい発展を遂げていることを実感した。今後も日本との連携のもと、成長していくであろう国の姿を垣間見ることができた。生徒には、今回の研修先が「なぜ、ベトナムなのか」という問いかけをしたが、十分に理解できる貴重

な体験になったと思う。

本事業が、将来世界で活躍する産業界のリーダーを育成し、日本と諸外国をつなぐ夢の懸け橋の役割を果たすことを願い報告する。



7. 生徒の報告

海外研修報告書

北海道苫小牧工業高等学校
電子機械科 3年 生徒

1. 学校見学

今回の研修で一番大きなプログラムである“B&S プログラム現地学生との交流”で私はどのようにすればうまくコミュニケーションを取ることができるのか、当日まで悩んでいました。

そこで私は“どんなに相手の方に言葉が通じなくてもしっかり相手の目を見て、ジェスチャーや言葉に想いを込めて話そう”と意識しました。すると思っていた以上に楽しく会話することができ、お互いの国についてのことや伝統民芸のことを紹介し合うことができました。また、“なぜ日本語を勉強なさるのですか？”と質問したところ、“日本に行きたい”や“通訳になるため”など意識の高さに驚きました。民族や言語を越えて交流し合うことのすばらしさを知ることができました。



現地大学生との交流

Hanoi Industrial Vocational College (ハノイ工業職業訓練短期大学) では旋盤や NC 旋盤・MC があり、中では実際に講義していた。旋盤は“2・3級技能検定取得”に力を入れていて、日本と技術連携しているという。こうした高度な技術への意欲的な取り組みに今の日本は負けているのではないかと感じ、危機

感をおぼえました。しかし、こうした技術教育の現場を見ることができ、工業を学ぶ私にとってとても勉強になりました。

そして、“いつか色々な国の方々とともに仕事をしたい”という新しい目標を見つけることができました。その目標を達成するためにもこれまで以上に語学力とコミュニケーション能力を磨いていきたいと考えています。

2. 企業見学

「ヤクルト」の工場を見学しました。工場全体で60人が働いており、そのうち日本人は2人でした。また、現地で使われている機械や原材料は日本から輸入しています。

ベトナムでは保全業務が無いため、万が一機械が故障した場合は自分達で修理しなければならない。このことから日々の点検作業がいかに大切なのかを知ることができました。

品質管理の面では“ISO22000”（食品）“ISO14001”（環境）を取得しており日本と同じくらい品質を高く保つことを意識していました。グローバル化社会が進む中で、今の私達に必要な力は「当り前のことを当り前に行う力」であると現地の工場長がおっしゃっていた。例えば、日本では保全業務の前や作業終了後に清掃を行うが、ベトナムでは行われない。そうした現場で率先して、立振舞える人を企業が求めていると言う。

特に“この力”は、私の恩師にあたる方にたくさんご指導していただいたため、実践する難しさを理解しています。改めてその重要性を知ることができた。

この工場見学で学んだことを私自身が実践し続け、北海道全体に広められるようにしたいと考えています。

3. 観光

私の中で一番心に残った場所はクチトンネルとハロン湾です。

クチトンネルはベトナム戦争時に使われていた全長約250kmの地下トンネルであり、トンネルの中はとても狭く明かりもありませ

ん。その中を当時のことを想像しながら進むにつれ、先行きの見えない辛さや孤独感、恐怖が襲ってきました。生き抜くことの必死さも感じ、生まれて初めて戦争の痛々しさを肌で感じました。



クチトンネル(入り口)

ハロン湾はユネスコの世界遺産(自然遺産)になった広大な海でベトナム北部にあります。世界遺産(自然遺産)に登録されたのは1994年であり、その風景は中国に近いものでした。ハロン湾の直訳は「ドラゴン(龍)が降りる場所」であり、鍾乳洞の中にもドラゴンやマーライオン、クラゲなど動物に似た岩がたくさんありました。また、海上で暮らす先住民の方々の生活や営み、自然の偉大さや神秘を味わうことができました。



世界遺産(自然遺産)ハロン湾

4. 感想

この研修で私はたくさんのことを学ぶことができ、日本とベトナムの絆の深さや技術の高さに感動しました。こうしてたくさんのこ

とを学べたのは、推薦していただいた先生方や両親、そして引率していただいた先生方のおかげです。ありがとうございました。また、全国から選ばれた21人の仲間に支えられたことも感謝しています。このかけがえのない繋がりを大切に、これからも連絡を取り合えれば良いと考えています。

この研修の大切さや重要性を北海道各地に広められるように頑張りたいと思います。

本当にありがとうございました。

私が学んだこと

青森県立弘前工業高等学校
電気科 3年 生徒

1. 学校見学

私達は、ホーチミンとハノイのそれぞれ2つの学校を訪問しました。私自身この研修で一番楽しみにしていたプログラムでした。自分と同じ年齢くらいのベトナムの学生と、学んできた英語を通じてコミュニケーションを取りたいと思っていたからです。しかし、日本語が全く通じない状況の中で、英語だけを頼りにコミュニケーションをとるというのは想像よりはるかに難しく、翻訳アプリに頼ってしまいました。それでも、ベトナムの学生たちと互いの国について、互いに学んでいることについて話し合えたのは、とても嬉しく鮮明に覚えています。



ベトナムの学生さん達と

話をしたなかでも、私がずっと聞きたいと思っていた、電気のことについて話をできた

のはとても勉強になりました。ベトナムでは、配電設備が整っておらず、たまに停電が起きることや電気の事故によるけが人がたびたびすることなど、知識、技術ともに発展途上だと感じました。将来、インフラ整備をしに来れたらと思いました。

2. 企業見学

現地日系企業である「ヤクルト」の工場を見学しました。日本でよく目にするヤクルトが世界中38か国に工場があるなんて知りませんでした。ベトナムの工場には、60人もの人たちが働いていてそのうち日本の方はたった2人だけでした。海外では、日本人は高い技術力だけでなく、日本人にしかできないことが求められるということを、話を聞いて学ぶことができました。日本人なら、当たり前に行うような掃除であったり、点検箇所とは別に不備があったら、修正するなど、当たり前に見えるようなことが必要だと聞き、今のうちから身に付けたいと思いました。



ヤクルト工場にて

3. 観光

ベトナムの街並みや人々は、同じアジアといっても大きく異なるものでした。見るものはもちろん、気温や匂い、聞いたことのない言葉に食べたことのない食べ物など、全てにおいて初体験でした。中でも、世界遺産であるハロン湾クルーズは印象的でした。世界遺産は日本にいてもなかなか見る機会がないの

で、見る事ができて本当に良かったです。当日は天気にも恵まれ、ハロン湾は想像していたよりもはるかに綺麗でした。片道4時間のバス移動の疲れも飛んでしまい、本当に素晴らしい観光ができました。



ハロン湾クルーズにて

4. 感想

研修を終えて、知識だけでなく、チャレンジする勇気だったり、コミュニケーション能力であったり、多くの力がついたと思います。このベトナムで過ごした時間は人生の中で、最も濃い時間を過ごすことができたと思います。本当に一生忘れられない思い出ができました。この思い出ができたのは、仲間がいたからだと思います。この繋がりは、今後も大切にしていきたいです。そして、この素晴らしい体験に関わってくださったすべての人達に感謝しています。本当にありがとうございました。

海外研修に参加して

宮城県工業高等学校
インテリア科 3年 生徒

1. 学校見学

現地学生との交流のため VJCC(ベトナム日本人材協力センター)に行きました。現地学生の皆さんは、フレンドリーで話やすく、日本語を少し話せるので一番のネックであった言語に対する壁はなく、スムーズにコミュニケーションを取ることができました。その後、日本からのお土産である竹とんぼで遊び、

交流を深めました。この竹とんぼはただ手で飛ばすだけでなく、女竹（めだけ）製溝切り飛ばし機を使うことで約30メートルもの高さに上昇しますが、コツが必要です。しかし成功すると、手動では味わえない迫力を味わうことができます。学生の皆さんも最初は上手く使いこなせませんでしたが、時間が経てば経つほど上達していき、屋根に上がってしまうほどの高さまで飛ばすことができるようになりました。また私たちは、花についての民謡を教えていただきました。日本語とは発音が違って難しかったですが、丁寧に指導してもらい、一緒に歌うことができ嬉しかったです。短い時間でしたが楽しく学生と過ごすことができました。

ベトナムの学校教育は、小学校5年間・中学校4年間・高校3年間であり、日本とは違っていました。また、2学期制で9月から1月、1月から6月と区切られていて暑くなる夏場はのんびり過ごすそうです。ただし入試が7月にあるので暑い中勉強しないといけなため受験生は大変な思いをするのだそうです。学校教育一つでも日本とは違うところがあり驚きました。

2. 企業見学

日系企業の「ヤクルト」の工場見学をしました。この工場は2006年6月26日にでき、60人の人が工場で働いています。

ヤクルトとは、原料が砂糖・ミルク・菌であり、1本あたり菌が60億個となっているため、腸の機能である「栄養をいれる・排出物をつくる・免疫力をつける」ということが活発になり、体に対して良い菌が沢山はいつていることが分かりました。また、ヤクルトの工場は世界38か国にあり、1日に350万本製造されていることに驚きました。こうして日本の企業が海外でも知られていることを嬉しく思いました。実は私はヤクルトをあまり飲んだことがありませんでしたが、これを機にヤクルトを飲んでみたくなりました。現在は機械1台で製造しているそうですが、

近々もう1台増やすそうなので、製造量が増えて、ベトナムの方により身近なものになると思います



ヤクルト製品

3. 統一会堂

ホーチミン市にある統一会堂では、ガイドさんの案内・説明を受けながら館内を見学しました。この場所は、ベトナム戦争終結まではベトナム共和国の大統領府及び官邸とされていたそうです。現在は南ベトナム大統領府当時のまま保存され、事実上の博物館として有料で一般公開されています。そのため、会議室や執務室・応接室など、どの部屋も格式高い内装になっていました。

ガイドさんからベトナム戦争の説明を聞き、歴史について学ぶことができました。



統一会堂にて

4. ハロン湾クルーズ

首都ハノイから、バスに揺られて約2時間、1994年にユネスコ世界自然遺産に登録された、ハロン湾に行きました。隆起による地

殻変動でできたハロン湾は、ドラゴンが降り立った場所として知られているそうです。そのため島の中にある鍾乳洞には、ドラゴンのように見えるものがありました。初めて鍾乳洞に入りましたが、自然現象によってこのような絶景が生み出されたことに感動しました。ベトナムに行く機会があったら、是非訪れてほしい場所です。

クルーズ中には、他の船が寄ってきてカブトガニやシャコ・貝を売りにきました。船同士がぶつかり、このように売り物を売りにくることは日本では絶対がないので珍しかったです。そして、日本では食べることができないカブトガニを食べました。少しクセがあり、少々苦手でしたが、食べることができて良い体験になりました。



ハロン湾 鍾乳洞のドラゴン

5. 感想

今回の研修は、私にとって初めての海外でした。それに加え、研修と一緒に参加する人は初対面だったので、緊張や不安でいっぱいでした。しかし、研修が始まると緊張や不安よりも、これから体験することに対する楽しみの方が大きくなりました。

ベトナムでの1番の思い出は、現地学生との交流です。言葉が通じず戸惑うのではないかと考えていましたが、学生の皆さんは明るく積極的に話かけてくれたので楽しく交流することができました。言葉が違って、身振り手振りで交流することができ、楽しむことができるのだと学びました。

私にとって今回の研修は、今しかできない体験、そして何より人とのつながりが一気に増えたように感じられました。沢山のひとと触れ合いながら、日本との文化の違いや考え方の違いを肌で感じることができました。約1週間という短い期間で、ここまで自分が変化したと実感できたのは初めてです。今回の研修で学んだことを生かし、何事にも挑戦する心を忘れずに、今後も生活したいと思います。

高校生のときにこのような貴重な経験ができたことは生涯忘れることはありません。ありがとうございました。

実りある一週間

秋田県立能代工業高等学校
理数工学科 3年 生徒

1. 大学訪問

今回の海外研修では、B&Sプログラムや大学訪問など、大学生との交流の時間が充実していた。大学生はとても明るく、気さくに話しかけてくれて、楽しかった。また、日本語が上手な大学生が多く、コミュニケーションをとりやすかった。大学生と会話していて、日本ほど英語を勉強していないことに驚いた。



ベトナムの大学生

異文化交流では、私たちが持っていった竹とんぼを大学生に教えながら飛ばしたり、ベトナムの歌を一緒に歌ったりした。HNIVCでは、大学生が歌や楽器を披露してくれた。学長に学校案内をしていただいた。また、昼食と一緒に食べたり、最後の夕食の時にはベト

ナムのおもちをふるまっていたりするなど、とても親切にいただいた。大学内の設備は、整理整頓がされていて、使いやすいように感じた。

たくさんの大学生と交流することができて、とてもよい経験となった。夏休みにもかかわらず、参加してくれた大学生の方々には感謝している。

2. 「ヤクルト」工場見学

企業見学では、日本でもなじみ深いヤクルトの製造工場を訪問した。従業員は60人で、その中で日本人は2人だけだった。工場長は日本の方である。世界38か国に工場があることが分かり驚いた。ヤクルトの材料を、日本から輸入し、日本の機械を使用するなど「日本の会社だ」と思うことが多かった。

また、日本では当たり前に行われているが、海外ではあまり行われていない、機械を洗ってから機械の点検を行う方法をベトナムでも行っているとおっしゃっていた。日本の技術を海外でも活用していて、私は、日本の技術は世界に誇れるものだと感じた。その他にも、はさみなどの危険物は一目見てわかるようにそれぞれの絵が描かれている型に合わせておくなど、誰にでも分かりやすい工夫がされていた。

技術を身に付け海外で活躍している日本人は、日本での苦労があったからこそ海外で活躍できることを感じた。



ヤクルトの容器で作られた巨大ヤクルト

3. ハロン湾・クチトンネル

世界遺産であるハロン湾とベトナム戦争中に使用されたクチトンネルを訪れた。

ハロン湾は、周りが岩に囲まれた場所だった。その日は、天気もよく遠くまで見渡すことができた。また、様々な形をした岩が多く、楽しいクルージングとなった。クルージング中、魚や果物を船で売りに来る光景は新鮮だった。船の中で食べたカブトガニは、独特な味だった。鍾乳洞も見た。日本の鍾乳洞は水があり、とても涼しいが、ベトナムの鍾乳洞は山の上にあり、水がなく蒸し暑かった。しかし、とても広い空間で綺麗だった。

クチトンネルでは、ベトナム戦争を経験した方の話を聞いたり、実際にトンネルの中に入ったりした。トンネル内はとても狭く、歩くのが大変で暑かった。また、落とし穴や空気穴など、自分たちの身を守る工夫のレベルが高いと思った。



クチトンネルの模型

4. 感想

今回の海外研修では、たくさんの人に触れ、多くのことを学ぶことができた8日間だった。日常では経験することのできないことを経験できて充実したものだった。一緒に参加した工業高校生のさまざまな地方の方言を聞いたり、学校生活の話をしたり、普段はかかわることのない学科の人と話すこともできて楽しかった。また、学年、性別を気にすることなくたくさんの人と交流ができた。

今回の海外研修を支えてくれた多くの人に感謝し、海外研修での経験をこれからの生活

に生かしたい。

本当にありがとうございました。

初の海外研修を終えて

千葉県立東総工業高等学校
情報技術科 1年 生徒

1. 観光

ホーチミン市では三日間を過ごした。

空港を出ると、鳴り止まないクラクション、意味のない信号など日本では当たり前のことが当たり前になっていないことに日本とベトナムの文化の違いや世界の広さを、身をもって感じた。

初日には統一会堂、サイゴン大教会、中央郵便局、人民委員会を訪問して、水上人形劇を鑑賞した。植民地時代の名残を水上人形劇の楽器や、統一会堂の中の展示物、聖母マリア教会の建物から知ることができた。

三日目にはクチトンネルを訪問し、細部まできちんと作られているトンネルもそうですが、ベトナム戦争を経験した方が強く印象に残っている。右手が無くなっており、鋭い眼光を持っていた。そのことからベトナム戦争がどれだけ悲惨でどれだけ生き残ることが大変であったかを感じ取ることができた。

ホーチミンのホテルは思ったよりも綺麗で日本とそう変わらなかった。ホテルを出ると必ず財布を売りに来るおばさん達がいて値段交渉をしてみるとだんだんと安くなりついには半額以下になった。やはり、現地の方々は売り方が上手で面白かった。

ホーチミンは現地のガイドさんが、「日本でいう大阪のような街」と言っていた通り、東南アジアらしさがあり街には活気があった。

そして、ハノイでも3日間を過ごした。信号は相変わらずではあったがホーチミンとは違ってあまりクラクションが鳴っておらず少し日本に近いような印象を受けた。

ベトナムのイオンモールでは日本でも見たことのある店やゲームセンターがありとても懐かしく感じた。

ハロン湾では今まで見たことのないような絶景を見ることができ、感激した。

前記の通りハノイはホーチミンよりも日本に近い印象を受け、食べ物も食べやすく、気候も過ごしやすかった。



現地の交通事情



ハロン湾

2. 学校訪問

現地では、Vietnam-Japan Human Resources Cooperation Center (VJCC)、Hanoi Industrial Vocational College (HNIVC) を訪問した。

VJCC はビジネスコースと日本語コースがあり、日本とベトナムの両政府により建設された。日本語が堪能な方もいたが自分は日本語ではなく、英語を話せる方と会話をした。英語を使うという経験が少なく、一部聞き取ることができなくて自分の英語力のなさを感じた。でも、何とか話をすることができ相手の将来の目標や趣味などを聞くことができた。

中でも相手の方がアメリカで働きたいと話していたことにはとても驚いた。

HNIVCではVJCCとは異なり陽気な方がたくさんいた。日本との交流も深く、毎年3週間ほど日本に送ったり、技能検定の2、3級を受けさせたりしている。自分の学校では見たことのない、ヘルメットの質を確かめる装置や強風の中で作業する装置があり設備が充実していた。最近では技能五輪でゴールドメダルを獲得するなど発展を続けている。

現地の学生さんは皆、英語力に優れていて自分の英語力のなさを感じ、帰国後は英語の勉強に精進していきたい。

3. 工場見学

日本の企業であるヤクルトの工場を見学した。世界38か国に工場が進出していることやベトナムでは女性が積極的に働くことなどに驚いた。工場では乳酸菌シロタ株を冷凍保存して輸入してくると聞きやはり海外で工場を持つことは大変だなと感じた。ベトナムでは戦争の影響もあり平均年齢が若く、工場で働く方も若い方が多かった。

現地で働く日本人の方に話を伺うと、海外で働くためには細かいことまで気にする日本人の心や英語が重要なこと、海外に事業所のある会社で働くと海外で働ける機会が増えるということを教えていただき、非常に重要なことを学べた。

4. 感想

これが初めての海外となりましたが本当に様々な経験をさせていただきました。ベトナムの歴史、食事、文化など普段では味わえないことを学び、素晴らしい1週間を過ごすことができました。2人だけの1年生の内の1人でしたが学年、性別関係なく仲良くしてくれた皆には本当に感謝しています。そしてこの研修に参加するにあたりご尽力いただいた、全工協の方々、家族、先生方には感謝しています。最高の経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

海外研修に参加して

東京都立多摩科学技術高等学校
科学技術科 2年 生徒

1. 海外研修について

1-1 海外研修の概要

本研修は全国工業高等学校長協会(全工協)が主催するもので、海外研修自体は第17回となり、17年の歴史がある。これまではカナダや、オーストラリアなどの国へ行っていたが、昨年度からはベトナムに行っている。

今回研修に行ったのはベトナムの中でも、大きな都市として知られる、ベトナム南部のホーチミン市と北部のハノイ市だった。

研修には私を含め全国から選ばれた22名が参加した。参加する一人ひとりがはっきりとした目的と、強い意志を持って参加していて、お互いのモチベーションを刺激しあいながら、終始良い雰囲気ですべての研修に臨むことができた。

1-2 研修の目的

本研修の目的は、世界で活躍するうえで大切な国際感覚を身に付けることにあった。ただしこれは参加する生徒全員の共通した目的であるので、私は個人的に、

- ①現地の人や町の雰囲気を感じ取り、一つでも多くのことを学び吸収すること
- ②現地の人と積極的に交流し、帰国した後も交流を続けること
- ③思い切り楽しむこと

以上の3つを自分の目的として付け加え研修に臨み、充実した研修をすることができた。

1-3 研修中の主な日程

海外研修：7月22日～7月29日

1日目

結団式&事前学習

2日目

ホーチミン市へ移動

ホーチミン市内見学

水上人形劇見学

3 日目

ベトナムヤクルト株式会社見学
クチトンネル見学

4 日目

VJCC(ベトナム日本人材協力センター)
で交流

ベトナム歴史博物館見学
ハノイ市へ移動

5 日目

HNIVC (ハノイ工業職業訓練短期大学)
で交流

B&S プログラム、現地大学生と交流

6 日目

ハロン湾のクルーズ
鍾乳洞見学

7 日目

ハノイ市内観光
バッチャン陶器村で絵付け体験と見学

8 日目

帰国

2. 現地での活動

2-1 学校見学と現地の学生との交流

本研修では学校見学と現地学生との交流のために、ホーチミンでは VJCC (ベトナム日本人材協力センター)、ハノイでは HNIVC ~ Hanoi Industrial Vocational College ~ (ハノイ工業職業訓練短期大学) を訪問した。また、学校見学とは別に B&S プログラムでも現地の学生と交流する機会があった。

VJCC

研修 4 日目に訪れた VJCC は日本とベトナムが協力して作った人材協力センターで、特に日本語の教育に力を入れているようだった。

ここでは高校生 2 人に対して現地の学生 1 人が付く形で交流した。一緒にお話した Hang さんとは英語で会話をして楽しむことができた。Hang さんは特に日本の祭りや着物に興味を持っていて、会話の中でお互いの文化への質問が多く出た。そのため、お互いの文化に対する理解を深めることができた。交

流の終盤に全体でベトナムの民謡を歌った。日本のものとは雰囲気は違っていたが、その独特な響きが好きになった。とても有意義な時間を過ごせたと思う。

HNIVC

研修 5 日目の午前中に訪れた HNIVC はハノイにある大学で、充実した設備が整っていた。

ここでは、交流会の後、学校見学をした。交流会ではベトナムの歌を披露していただいたり、竹を用いたベトナムの遊びを体験したりした。そこで出されるフルーツ 1 つをとってもやはり日本のものとは違って、文化の違いを五感で感じる事ができた。こちらが持って行った竹とんぼもベトナムの人から見ると珍しいようで、普段、当たり前だと思っていた日本の文化が貴重なものだという事に気が付いた。その中で海外の文化を理解、尊重しながら日本の文化も大切にしていきたいという思いを強く抱いた。

続く学校見学では自動車修理施設や労働安全の教育施設、旋盤の練習施設などを見学した。自動車修理施設、労働安全の教育施設はいずれも韓国の現代建設が作ったものらしく、ここでもベトナムと他国の関係が見ることができた。なお、労働安全の教育は日本では就職後に企業で行われるもので、それを大学で学べるのは非常に実践的で素晴らしいことだと思った。また企業から製品の受注もすること、自動車修理のコンクールでも東南アジア大会で優勝するほどの実力があることをお話ししていただいた。実践的な訓練を行える大学であることがわかり、就職率が 100% だという話にも納得できた。

交流した学生は皆活気があり、明るかった。ベトナムの発展には HNIVC のような場所で学んだ活気のある学生が多く関わっていくのだと感じた。

B&S プログラム

研修 5 日目午後に行われた B&S プログラ

ムでは、日本人高校生5人と現地学生2人のグループになってイオンモールに行った。イオンモールの建設には日本も深く関わっており、日本の会社も多く出店していた。

大学生は、イオンモールに行くのは2回目だと言っていた。モール内は人がまばらで、日本では気軽にショッピングモールに行くが、ベトナムではそうではないのかもしれないと感じた。店には珍しい果物がおいてあり、大学生とお互いの国の食べ物について話すことができた。いろいろなところに日本語を使った名前の商品がおいてあった(oishi,kokozoなど)。ドラえもんが人気なようで、ベトナムは親日国だということに、改めて気付かされた。大学生はとても日本語が上手だった。とても仲良くなり、次来た時も会おうねと言ってもらえた。今後もこのようなつながりを大切にしていきたいと感じた。



B & S プログラム時の記念写真

2-2 企業見学

本研修ではベトナムに進出した日系企業の見学を目的に、ベトナムヤクルト株式会社を訪問した。

ベトナムヤクルト株式会社

研修3日目に訪問したベトナムヤクルト工場は、生産ラインが1本の小さな工場だった。58人のベトナム人と2人の日本人が働いていて、日本人は現地従業員の教育や機械の整備をしていると分かった。生産ラインは1本でも1時間で45,000個のヤクルトを生産、梱包でき、ここで作られているヤクルトはベトナム国内だけでなくカンボジアにも輸出され

ていると聞いた。想像していたよりも小さな工場だったが、他国にも影響し健康を支えていると考えるとすごいなと思った。

見学はヤクルトの説明、施設見学、日本人従業者の方のお話の順に行われた。個人的に一番印象に残ったのは最後のお話の中の、「世界で活躍できる技術者になるには、高レベルの技術が必要で日本の職人の精神を持つことが大切だ」という言葉だった。この言葉は海外で技術者として働いた経験のある先輩から私たちへのアドバイスなのだと気付き、感銘を受けた。これから勉強をしていく時には、高レベルの技術、知識だけではなくしっかりと日本人としての意識、精神も身に付けていくべきなのだと改めて気付かされた。この言葉を常に胸に置き、一日本人として世界という舞台で活躍できるようになりたいと思った。

この見学では現地の従業者の方のお話を聞けるなど、とても学べるが多かった。ここで学んだことを今後の人生で生かしていきたいと思う。

2-3 観光

私はこの研修を通してベトナムの雰囲気、歴史を肌で感じる事ができた。何もかもが刺激的だったが、特に印象に残ったのはホーチミン市内観光、クチトンネル、ハノイ市内観光だった。これらの場所では日本と全く違うベトナムという国を思い切り感じる事ができた。

ホーチミン市内

ホーチミンはベトナムで1番大きい都市で、とても人が多くて活気があった。バイクの数がとても多く、信号もほぼ守られないため日本では感じられないスリリングな観光を楽しめた。

見学した統一会堂や中央郵便局などの建物はどれも新しく感じた。道沿いのあらゆるところに屋台があり、とくにフォー（米を使ったうどん）や果物の店に人が集まっていた。親日家が多いのか、町の中でも日本語を見る

機会が多かった。特に観光地やホテルの前にいる、路上販売をする人は流ちょうな日本語を話していた。明るくて、親しみやすい人が多く、よく話しかけられた。ホテルに戻った後、夜12時を過ぎても外で話している声が聞こえた。朝が早く、夜も遅いことについては普段彼らがどのような生活を送っているのかと不思議に思った。もし機会があれば、夜のおしゃべりにも 混ざってみたいと思った。



ガイドのチンさんとの1枚

クチトンネル

クチトンネルはクチ地方にあるベトナム戦争の時の使われた全長約200Kmのトンネルで20年近くかけて掘られた。ここには戦時中使われていたトンネルの他にも、落とし穴の展示や当時食べられていたキャッサバ（タピオカの原料）を食べられるコーナーもあった。

初めに戦争を体験した現地の方からトンネルの説明を受け、その後実際にトンネルに入った。実際に使われたトンネルと、観光用に掘られたトンネルに入った。やはり実際に使われたトンネルのほうが狭く、しゃがんで動くのがやっとで、中はとても暑かった。トンネルには敵に対して見つからないようにする仕掛けがあり、その一つ一つの説明を聞いて当時は生きること必死だったことを感じ取った。

その後食べたキャッサバは味のないサツマイモのような感じで、塩とピーナッツの粉を混ぜたものをつけて食べた。とても腹持ちが良くすぐれた食材だと分かった。

帰りのバスの中でベトナムではネコ、イヌ、

ヘビ、ネズミを食べるという話があった。戦争中は食べ物がなくそれらを食べなければいけなかったのだと考えると、ベトナム人のたくましさを感じた。個人的には機会さえあればどれも食べてみたいと思った。

実際に体験して歴史をまなび、新たなことに興味を持てて、とても良い体験ができたと思う。



トンネルに入る私

ハノイ市内

ハノイはベトナムの首都で、現代的な街並みだった。日本政府の援助を受けて空港や道路が作られているようで、道路はホーチミンに比べて広がった。バイクの中の自動車の数の割合もホーチミンと比べて多かったように思う。商店は夜の10時にもなるとほとんど閉まり、ホーチミンのようにぎやかさはあまり感じなかった。あらゆるところで都会っぽい印象を受けた。

ハノイの市内には文廟やホー・チ・ミン廟、チャイナタウンなどいろいろな見どころがあった。とくに印象に残ったのはチャイナタウンで、とても活気にあふれた場所だった。果物を売る店、肉を売る店、衣類を売る店それぞれ通りが分かれていて、どこにも人がごった返していた。そのほとんどが現地人で、ベトナム人のパワーはすごいと感じた。

ハノイは中国に近いこともあってその文化の影響を多く受けていることを感じた。しかしその中にもベトナム独特の雰囲気や文化が混じっていて、とても面白い場所だと思った。次来るときはもっと市街地を回ってこの雰囲気をもっと感じてみたいと思った。

3. 研修の感想

この研修では本当に多くのことを学ぶことができた。ベトナムの気候、人の雰囲気、大学の様子、職場の環境などあらゆる面で発見があった。日本と似ているところもあれば、まったく違うところもあり、国が変わればここまで違うのだということを毎分毎秒感じていた。初めこそ不安はあったし、日本と比較してしまっていたが、次第に不安は好奇心へと変わり、いつしか「これがベトナムなのだ」とありのままで受け入れられるようになった。このことで特に食事、生活について、先入観にとらわれずにベトナムを見ることができてとてもよかった。今後は研修で得た経験を生かして、将来に向けて頑張っていきたい。

この研修でよかったのは、ベトナムについて理解が深まったことだけではなく、多くの人と関わったことだと思う。海外研修に参加した日本の他の高校生21人と知り合え、仲を深められたことはもちろんのこと、普通に旅行するだけでは絶対に知り合うことのできない現地の大学生と交流できたことは私にとって一生ものの宝になった。実際、今もSNSを利用して研修の仲間、現地の大学生とメッセージのやり取りやビデオ電話を利用して交流している。このつながりは10年たっても残しておき、ぜひまた会って話がしたい。

今回研修に参加して、自分だけでなくほかの多くの人にもこのような経験をしてほしいと思った。いずれは高校生向けの海外研修を企画する側に回れたらと思う。

最後に、このような素晴らしい経験を支えてくださった関係者の方に心からお礼を言いたいと思う。海外研修を企画・運営してくださった全工協の先生方、ツアーを支えてくださった添乗員の方、海外研修に行かせてくれた家族、推薦してくれた学校の先生方、交流していただいた現地の方、ベトナムを案内してくださったガイドの方、企業見学をさせていただいた社員の方々、本当にありがとうございました。

Tôi cảm ơn các bên liên quan.

ベトナム研修で学んだ事と印象に残った出来事

神奈川県立藤沢工科高等学校
総合技術科 3年 生徒

1. 学校見学について

私たちが訪問した学校は2つあります。1つ目はホーチミンにある貿易大学、そして2つ目はハノイにある工業職業訓練短期大学です。

1つ目に訪問した貿易大学では、最初に担当の方々の挨拶を聞いた後、交流として貿易大学の生徒達としばらくフリースペースで、ホーチミンの民謡を皆で歌いました。正直言って全くベトナム語が話せない私には、とても難かしい歌でしたが、現地の学生さんが褒めてくれたり、一緒に楽しく歌ってくれたのを、今でも鮮明に覚えています。ちなみに私ともう1人の男子で2人ペアを作って、その中に現地の学生さんが入るというパターンでした。私達と交流した学生さんは、英語は話せるものの、日本語は勉強中のようで、まだ他の学生さんのようには話せない方でした。英語で話すのは少し難しかったのですが、英語が好きな私にとってはよい勉強になりました。

これらのフリースペース、民謡の合唱を終えた後、現地の学生さん達と初日に行なった竹とんぼを使った遊びをしました！もちろんベトナムの人達は竹とんぼを使ったことが無いため、私達日本の学生が竹とんぼの飛ばし方を手本も兼ねてベトナムの学生さん達に教えました。

殆どの方が日本語で飛ばし方を教えていたと思うのですが、僕ともう1人の男の子は英語で飛ばし方を教えました。道具を使った遊びを英語で説明するという事をした事が無かったので、普通に英会話するよりも凄くレベルが高かったです。

竹とんぼの遊びを終えた後、集合場所に戻り、お互いの国のお土産を渡してお別れしました。

2つ目はハノイにある職業訓練学校という所を訪問しました。こちらでも貿易学校と同じ様に最初に挨拶の言葉、歓迎をしていただいた後、現地の学生さんが来て学校の舞台上歌やダンス等といったパフォーマンスを披露しました。両方ともプロ顔負けのパフォーマンスでした！しかしこの歓迎に物足りないと思った日本の学生は、パフォーマンスをお返しかの様にこっちも現地の人達にSMAPの世界に一つだけの花を日本の高校生2人が舞台上立って歌いました。ちなみにその2人の高校生の内の1人が私です。最初は赤面しましたが、だんだんと楽しく感じてきて熱唱してしまいました！その後現地の学校の校長先生から戦争中はどんな暮らしをしたかなど話をしてもらいました。さらには機械見学、ヘルメットの耐久実験、重い荷物をどうやって運ぶかといった事を体験しました。ヘルメットの耐久実験はとても楽しかったです。

そのあとは現地の人と日本のお菓子をシェアして仲良く食べました。



現地の学生さんとの交流

学校見学を終えた後、現地の校長先生が昼食をご馳走してくれました。現地の職員の方々とお昼を食べながら楽しく会話ができました。このような素晴らしい体験ができたのは現地の校長先生と仲が良い先生たちのおかげだと思っています。ありがとうございます。

2. 企業見学

企業見学には3日目の研修日にいきました。

なんと訪問したのは日本発祥で日本でも有名なホーチミン市にあるヤクルト工場です！入り口で歓迎してくれたのは若くて美人な現地のヤクルトの社員さんでした。そしてヤクルト工場の見学は日本を含めて初めての見学になりました。これもベトナムで果たせたとはすごく嬉しかったです。



ヤクルト工場inホーチミン

上の写真がホーチミンにあるヤクルトの会社の中の一部です。壁にある写真がこちらの会社の外観です。やっぱり日系企業だけあって雰囲気が日本とあまり変わらないと感じるのは私の気のせいでしょうか。

そんな中ヤクルトの社員さんからヤクルトの歴史を解説してもらいました。時をさかのぼって1930年に、日本のシロタさんという方がヤクルトに入っている菌を見つけたのがきっかけ。この人がいなかったら今の世界にヤクルトは存在してないと思います。

ヤクルトはなんと多国籍企業で世界38か国あるとの事、アメリカ、フランス、イギリスにも会社がある模様です。ヤクルトがこんなにも世界に発展していたなんて全然知りませんでした。

そしてさらに驚いたことは、人間の腸の長さは6mもあることを聴いてそんなにあるのかと思っていたらサンプル品で見させてもらった結果本当でした。てっきり私は自分の身長よりはないだろうと思っていましたがその逆を取られました。

こちらの会社では多いときに、1時間で約1万本のヤクルトを製造できるようです。

そして、ISO22000を取得し品質管理も徹底していて、ヤクルトに必要な菌が入っているかをチェックしたり、さらには大きな点検が月に1回あるとの事です。

ちょっと話をずらすとこちらの求人票は日本みたいに書類ではなく、インターネットで応募してから試験を行うみたいです。

最後には岩男さんが作ってくれたヤクルトのコースターを受け取ってホーチミンのヤクルト工場を出ました。私がヤクルトに就職したらこちらの工場に勤めたいと思いました。

ちなみにお別れの挨拶は私がやらせていただきました！

3. 観光



こちらはホーチミンにある統一会堂です。突入した戦車も記念として展示されています。ベトナム戦争終焉の地という歴史的な建造物ですが、とにかく暑くて大変でした。私事ではありますがこちらの売店で缶コーラを買ったのが人生初の海外でのお買い物です。

なんと大統領・大統領夫人の部屋も見ることができました！でも流石に大統領の部屋だけであって観光客がすごく多かったです。

統一会堂の後、聖母マリア教会という所に訪れました。しかし、改修のため中に入れないので隣の中央郵便局から眺めるだけでした。そして5分の自由時間をもらい、これも私事

ですが近くにあったマックに寄って、ベトナムのマックを堪能しました。

更によかったのがハロン湾クルーズの船内で、普段口にしないような物を食べることができました。なんとそれはカブトガニ！しかも1匹につき9000円！？これは高いから食べなくて良いやと思った瞬間、先生がレアものだから食べるしかない！と言って買ってくれました。9000円の価値がする味でしたね！ご馳走様です！！

4. 感想

今回の1週間はあっという間の時間でしたが、とても素晴らしい研修になりました。

なぜなら、全国から選ばれた工業高校生や現地の学生さん達、引率の職員の方々やガイドさん達皆さんが全員良い人だったので、素晴らしい研修になったと思います。

そのなかで1番思い出に残るのは、4日目にあった工業職業訓練短期大学の学生との交流と、午後に行ったB&Sプログラムという交流で、ベトナムの学生さん達とイオンモールに行った事です。職業訓練学校については「1. 学校見学について」にも書いてあるように、パフォーマンスをしたり、一緒に伝統のおもちゃを使って遊びました！特にパフォーマンスはいきなりやる感じになって最初焦りましたが、皆ノリが良かったので緊張もとけて楽しく歌えました！その後の工業機器の見学も終えた後、現地の学生と仲良く会話していたら、引率の先生に「お前は今日からもうこの学生！仲良くしすぎ！じゃあね！」と言われ1回バスに乗るのを拒否され、代わりに現地の学生さんが私の席に座っていました。でもこれを言われるほど仲良くなれたのが凄く嬉しいです！

B&S 交流では班別になってそこに現地の学生さんが2人入るという形でした。自己紹介した後、ハノイのイオンモールに行きました。いくら親日国とはいえイオンまであるの！？と思いました。2時間という時間をもらい他の班はお茶とかしているのに、私達の

班はゲームセンターで仲良くプリクラを撮ったり、ダンスゲームしたり、ホッケーしたり、車のゲームをしたり、ピカチュウの中に入って遊んでいました！先生からは「ベトナムまで来てゲーセンはすごい」と言われました。

しかもイオンの中にはなんと、牛角？！があると知った私は皆で行こうと誘ったのですが拒否されました。でも皆と楽しい時間を過ごせました。いまでは連絡先を交換してお互いにメッセージを送っています。「日本に行ったら会いに行くね」「ベトナムに行ったら会いに行くね」などの会話をしています。

まさか海外に友達ができるとは思ってもいませんでした！この企画に参加できたことを誇りに思います。またいつかベトナムに行ったら、仲良くなったベトナムの学生さんにまた会いたいです。

ベトナムには日系企業がたくさんあるとは聞いていたのですが、ホーチミン市内には日本のコンビニや和食屋さんの大戸屋が街に何軒かありました。私は海外にある日本のお店等を目にすると行きたくなってしまう人なのでベトナムに着いてから約3日間は朝昼晩の間隔で近くにあったサークルKに行きました。他にも日本にあるお店を見つけはしましたが、日程上訪れる事ができなかったのも、いつかまたベトナムに行けたら行きたいと思っています。

最終日には日本に帰らないでもっとベトナムにいたい！と感じてしまいました。これは今回の研修が楽しかったせいもありますし、一緒に研修に行った人たちとも仲良くなれたので凄く楽しい研修ができたからでもあります。あっという間の1週間でしたが充実した1週間を過ごせました。

ベトナムの学生の皆さん、引率者の先生の皆さん、一緒に研修に行ってくれた高校生の皆さん、共にすばらしい研修をさせていただき本当にありがとうございました！

海外研修 in ベトナム！

山梨県立韮崎工業高等学校
環境化学科 2年 生徒

1. 大学訪問

VJCCとHNIVCと言う2つの大学を訪問しました。VJCCは4日目、HNIVCは5日目というスケジュールでした。

4日目のVJCCはVietnam-Japan Institute for Human Resources Development HCMCと言って人材育成に力を入れている学校で、貿易・人文・技術短期大学など沢山の学部が集まる大学でした。そのため日本語を学んでいる方が多く、日本語でコミュニケーションをとれる場面も少なくなかった。最初是中々うまく会話が出来なかったが、絵を描いたり、ジェスチャーを使って会話を進めていくといつの間にか私も相手も盛り上がっていて、大学の事や学部、好きなことなど沢山話していた。その後には私たちが持ってきた竹とんぼで遊んだ。初めて使うようで惑っていましたが、使い方を教えるとすぐに上達して最後には天井に着くほどに上がるようになっていました。最後にはベトナムの歌を班ごとに歌い交流は終了となりました。初めてのことで緊張しましたがとても貴重な時間でした。5日目のHNIVC（ハノイ工業職業訓練短期大学）は約4000人の学生がいて、日本に10人ほどインターンシップに行かせ技術を学んでいるとのことでした。私たちが行ったときは夏季休業中で学生はあまりいませんでしたが、交流した学生の方々はとても厚く迎えてくれました。歌や笛を使ったパフォーマンスを見たときは凄くて鳥肌が立ちました。伝統的な竹を使った遊びも教えてもらえてよかったです。校舎の中を見学しましたがとても広く、旋盤や溶接、見たことのない機械があり興奮しました。工業高校と似たところが多々ありとても楽しく学ぶことが多い交流でした。

2. 企業見学

3日目、ヤクルト工場を見学しに行きまし

た。アオザイを着たスタッフのチョウさんが出迎えてくれました。2006年6月26日にできて国内だけでなくカンボジアなどにも輸出していると言っていました。ヤクルトは日本でお馴染みなのでとても興味が湧きました。研究と実験をたくさん重ねて体にいい菌見つけた白田さんは凄いと思った。ベトナムのヤクルトは日本から材料を輸入し、作り方も同じに作っていると聞き、もらったヤクルトを飲んでみたら私は少し後味が違うかなと思った。工場内見学では目にもとまらぬ速さでヤクルトが作られていてそれを管理している従業員の方は凄いと思った。作った後の掃除もしっかりとしていて衛生面も徹底していたので安心して飲めるお腹に良い飲料だなと思いました。丁寧でわかりやすく発見が多い企業見学でした。自分の学科とも相通ずるものがあり頑張ろうと思いました。

3. 観光

3日目に行ったクチトンネルと6日目に行ったハロン湾が印象的でした。クチトンネルはベトナム戦跡で地下に都市を築き、全長250kmにも及ぶものでした。たった20年間で築きベトナムを支えたクチトンネルは、ベトナム人の細身に合わせた小さい入り口やトンネル、蟻塚に似せた換気口、葉を被せた落とし穴など沢山の当時の知恵を視て感じ、体感することが出来ました。発想力と行動力、集中力がすごいなと思ったので見習いたいと思います。とても学ぶことが多くそして体感することが出来たので、とても楽しかったです。6日目のハロン湾は初めてのクルーズでワクワクしました。乗ってみると意外と揺れて驚きました。有名なメンドリ・オンドリの岩を見られてよかったです。クルーズ船で向かった鍾乳洞は日本と違い山の上にあったため階段を上りましたが意外と急で疲れてしまいました。ですがいざ鍾乳洞の中に入ってみると疲れが吹き飛ばすほどに綺麗で、美しかったです。初めて鍾乳洞を見学しましたがライトアップされていて芸術の域でした。晴天に

恵まれ青く綺麗な青空とハロン湾、そして鍾乳洞を見られてよかったです。また行きたいと思いました。

4. 感想

今回の海外研修は、海外は初めてだし初対面の方々ばかりだったので緊張でやっていくか不安でした。ですが学科の話をしたり今回の研修に参加した目的など他愛ない話をしていたらたくさんの方々とは仲良くなることが出来ました。また、研修に参加した方だけでなくベトナムの大学に通っている方やガイドの方など沢山の方と触れ合うことが出来ました。そして、物の捉え方、価値観、考え方など沢山の方面から捉えるということを学びました。自分では捉えられなかった所を教えていただき、逆に私が捉えて相手が捉えられていなかった所など意見の交換もできました。まさに十人十色！先生が言っていた「なぜベトナムなのか」という問い、私は発展途上で日本との交流があり、これからもっと世界的に拡大するであろうベトナムだからこそ学ぶことがあり、そして日本との比較、改善点などが見つけられるからではないかと思いました。今回の研修ではたくさんのかたちを感じられ考え、学ぶことが出来ました。

支えてくださった先生方、航空会社の方々、そしてガイドの方々、ありがとうございました。22人で参加できてよかったです本当に楽しく学ぶことが多い海外研修でした。

シン カム オン！

海外研修に参加して

石川県立工業高等学校
デザイン科 3年 生徒

1. 学校見学

私達は今回の研修で、日本と関係の深い2つの大学を訪問しました。その一つである Vietnam - Japan Human Resources Cooperation Center では、日本語を専攻するベトナムの大学生と交流を行いました。私がお話をした方

は2年生で、彼女の使う日本語がとても丁寧だったことに感心しました。竹とんぼを紹介したときは興味津々で、みんな夢中になって飛ばしていました。

彼女に日本についての印象を聞くと、新聞で東日本大震災の記事を見て感動したという話をしてくれました。あれほど大きな災害だったにも関わらず、日本人は落ち着いて、思いやりに溢れる行動をとったことが本当に素晴らしいと、そして彼女は日本人の平穏で温和な性格が大好きだと言ってくれました。海外からの日本に対する声を生で聞き、私は日本人としての誇りを感じました。

楽しい交流の時間はあっという間に過ぎ、次は彼女が留学生として日本に来た時に、私が地元を案内する約束をしてから、お別れしました。短くも充実した時間でした。

2. 企業見学

企業見学では、日系企業「ヤクルト」のベトナム工場を訪問しました。ここではヤクルトの誕生からその歴史、現在の取り組みに至るまでとても詳しく説明していただき、実際に生産ラインも見学しました。

日本人である工場長の岩男さんのお話からは感銘を受けました。私たち日本人がこれから海外で働く上で必要とされる力とは何なのか。英語力、高度な技術力、それだけでは足りません。職人気質を持ち、日本で学んだことを活かして自ら考え対処する力が大切だということを再認識しました。実際、工場内には機械を何度も念入りに掃除している現地スタッフの姿があり、世界一だと言われる日本のメンテナンス技術が確かに伝えられているように感じました。

3. 戦争の爪痕

今から約40年前に、当時超大国アメリカの撤退をもって終結したベトナム戦跡であるクチトンネルを訪れました。私達を迎えてくれたのは現地ガイドさんと、実際に戦争を経験したかつてのベトナム兵でした。利き腕だ

ったであろう彼の右腕は激しい戦火により肩から先が失われていました。20年の歳月をかけ手作業で掘ったという総延長250kmの地下トンネルに入り、長い戦いの間に幾度も作戦会議が開かれた場所、何人もの米兵を捕らえた落とし穴、負傷した兵士の手術を行っていた場所等を目の当たりにしました。国を挙げての総力戦だったことから犠牲者の数も計り知れなかったことを知り、戦争の熾烈さや残酷さを痛感しました。同時に、ベトナム人の忍耐強さや不屈の精神も見ることができたと思います。

日本は今年で72回目の終戦記念日を迎え、その痕跡を見ることも少なくなりました。しかし、ベトナムはまだ戦後42年。無数の弾痕が残ったままの建造物があったり、一部の地域では枯葉剤の影響で子供を産むことが禁じられている人々がいるのが現実です。今回ベトナムで実際に戦跡を見て、肌で感じたことは、これから先もずっと忘れずにいようと思います。

4. 観光

研修中の8日間は天候に恵まれ、ベトナムの観光も楽しみました。

ホーチミン市では、統一会堂や中央郵便局を観光し、西洋建築の豪華絢爛な雰囲気には酔いしれました。またハノイ市では、中国の支配時代に建てられた文廟や一柱寺を訪れ、私も手を合わせて来ました。中国植民地時代とフランス植民地時代の2つの歴史を持つベトナムでは、当時の支配の影響を色濃く反映した建築様式や文化が数多く見られました。またその中でベトナム独自に発展し生まれた文化はとても素晴らしいと思いました。水上人形劇の斬新で圧巻なパフォーマンスには驚かされましたし、伝統工芸品バッチャン焼きの絵付けも貴重な体験でした。

他にも、B&S プログラムで体を動かし姉妹兄弟のように遊んだことや、鍾乳洞で見た言葉を失うほどの幻想的な光景、美味しいベトナム料理と宙を舞ったご飯、移動中のバスか

らの眺め、現地で体験したもの全てが、大切な思い出になりました。



ベトナムのイオンモールにて



ティエンクン鍾乳洞

5. 感想

研修に引率してくださった先生方や添乗員さん、研修先やバスの中でいろいろな話を聞かせてくれたガイドさんや、私達を明るく迎えてくれた現地の方々に、心から感謝しています。私が学んだ多くのことは、実際にベトナムを訪れたからこそ得られたものです。このレポートにまとめきれないほど沢山あるので、これから自分の力で周りに伝えていこうと思います。伝えようと努力することの大切さ、そして伝わった時の嬉しさも、現地の方との交流を通して学んだことです。

今回、学年も学科も違う22人の工業高校生が全国から一堂に集い、ベトナムという地で共に学び成長できたことは、私にとってとても貴重な体験でした。皆と過ごした1週間は本当にあっという間でしたが、とても楽しかったです。かけがえのない時間をありがとうございました。



ホーチミン市ガイドのチンさんと

ベトナムと22人の仲間に…
シン カム オン！

福井県立武生工業高等学校
都市建築科 2年 生徒

1. 大学訪問

4日目 VJCC、5日目 HNIVC の2つの大学を訪問しました。

VJCC では、竹とんぼをしたり歌を歌ったりして学生との交流を深めました。私が出会った大学生の方は4年生でした。今は、課題研究で忙しいと言っていたので頑張っていて欲しいと思いました。来年は日本に来ると言っていたのでその時に再会できるのを楽しみにしています。HNIVC では、工業の事について学んでいる学生が数十人いました。彼らは、歌や演奏などで私達を出迎えてくれました。そこで聞いた男性二人の歌声のハモリはとても綺麗で鳥肌が立ちました。

また、日本代表として2人の生徒が「世界に一つだけの花」を歌っている姿はとても勇敢だと思いました。今回であった大学生の方達と将来お仕事が出来たらなと思いました。

2. 企業訪問

3日目にヤクルト工場を訪問しました。

ヤクルトは日本だけの商品だと思っていたので海外にも進出していて驚きました。また、工場を訪問して製造業の作業を見ているうちに少しその仕事に関心を持ちました。

訪問先で出会った岩男さん。彼のデザイン

したコースターは可愛かったです。

3. 観光

たくさんの場所を観光した中で私はハロン湾が一番印象に残っています。

辺り一面青色…。とにかく美しすぎました。クルーズ船で行った先にもっと素晴らしいものが待っているとは…。それは、鍾乳洞です。もうそこは別世界。あまりの迫力に私は感動しました。鍾乳洞はまだまだ世界にあると聞いたので、行ける機会があれば行ってみたいと思いました。

他にも、水上人形劇やクチトンネル、ホーチミンやハノイの市内見学など1つ1つ見るものが初めてで物凄く楽しかったです。

4. 感想

ここだけの話3万円で海外いけるという話はこの研修だけだと思います。私は、とにかく海外に行きたい。そしてこの研修でたくさんの友達を作りたいという思いだけで今回の研修に参加しました。研修が始まって最初のころはカチカチだったけど、日をみんなで過ごすにつれ打ち解けあうことができたのではないかと思います。全国から集まって来ているのでみんな方言があったりして面白かったです。「バルバスバウ」という仲間たちもできて研修が終わった今も話したりしているのととても楽しいです。

この研修が始まる時、団長さんが「なぜベトナムなのか」とおっしゃっていました。私なりに考えてみた結果、ベトナムはこれから発展する国であるというのはもちろん、物価が安く、治安はそこまで悪くもなく、昔からの長い付き合いがあるからだと考えました。また、この研修で出会った仲間とは、大人になってもつながっていたいと思いました。ベトナムで出会ったチンさんやトンさん。お店の店員さん私が出会った人たちは、皆笑顔が素敵で面白くて親切な方ばかりだったと感じました。何より実感したのは、笑顔は世界の共通言語であるということでした。

1週間という短い期間だったけどこんな私と仲良くしてくれてシンカムオン！いつか、みんなと再会出来る日を楽しみにしています(^^)

先生方1週間支えていただきありがとうございました。



出会った仲間たちとの写真



チンさんトンさん最高の笑顔



ベトナムでの研修を終えて

静岡県立科学技術高等学校
ロボット工学科 2年 生徒

1. 学校見学

ハノイにある工業職業訓練短期大学を訪れました。大学生の皆さんは夏休み中とのことでしたが、たくさんの人に集まっていただき、交流会にて歌を歌ったり楽器を演奏するなどして歓迎してくれました。その後は共にベトナムの遊びをするなどして交流を深めたり、大学を見て回ったりしました。この大学では安全についてとても力を入れた教育をしていました。海外では日本に比べあまり安全性を考えていないという勝手な思い込みが自分にはあったので、このことには驚きました。また、現地の大学生は全員とても活発で積極的だったので交流はとても楽しかったです。



現地学生との交流

2. 企業見学

日系企業であり全国で活躍しているヤクルトの、ホーチミンにある工場を訪問しました。この工場では全員で60人働いていて、その内日本人は2人いるそうです。この工場ではベトナムと隣のカンボジアの分をつくっているらしく機械によってすごい早さでヤクルトが作られていました。全国のヤクルトでは日本の住友が作った機械を使っているそうです。人数が少ない分機械の負担が大きいと考えるとこの機械の重要性が感じられました。ヤクルトでは海外の工場での、日本人の扱いについて聞くことができました。ベトナムに限ら

ず海外で日本人は、高い技術をもっていると思われており頼られることが多いそうです。もし海外で働くことになっても困らないように技術を磨いていきたいです。

3. 観光

日本を出てまずはホーチミンを訪れました。ホーチミンは後に訪れたハノイよりも、クラクションがやたら多かったり、夜になると道に人が集まってきて騒いでいたりして賑やかな印象を持ちました。3日目にホーチミンから2時間ほどかけてクチトンネルへ行きました。クチトンネルではベトナム戦争で基地として使われていたトンネルやトラップなどをみました。観光用ではなく実際に使われていたトンネルで、そのトンネルにはいると、中はとても狭く屈んでも頭を打ちそうになるほどでした。こんなに狭くしたのは、万が一このトンネルがアメリカ人に見つかっても入られないようにするためだそうです。これはベトナム人がアメリカ人より背が小さいことを生かした工夫です。ほかにもベトナム人は空気穴を犬に発見されないための工夫や、落とし穴にかかるようにする工夫など、たくさんの工夫をしていました。



クチトンネルの落とし穴

また、途中で解説をしてくれたガイドさんは、戦争で負傷して片腕がありませんでした。日本であればそのことに触れ戦争の悲惨さなどを教えてくれると思うのですが、そのガイ

ドさんは戦線やトンネルの解説をしてすぐに帰ってしまいました。こういうところでも日本との違いを感じました。

その後、ホーチミンからハノイへ向かいしました。ハノイでは4時間かけてハロン湾へ行きました。ハロン湾は波がほとんどなく快適なクルーズをしました。船に乗っていると小舟が並走ってきて、窓から果物を売ってきたり、船の中で海産物を売ったりしていて驚きました。そこで売っていた、見るのも初めてのなカブトガニを食べた話は、帰ってから話したところまわりのウケがよく、なぜかひとつ自慢になりました。その後、見学した鍾乳洞は神秘的でとても綺麗でした。

4. 感想

今回の研修では、初めての海外ということもありびっくりするほど沢山の驚きがありました。言語はもちろん、料理の味や道路事情など違いもたくさん感じ、価値観が変わった気がします。この研修の目的のひとつだった国際的な感性は身につけられたと思います。また、英語だけでのコミュニケーションや、現地の人に質問しながらの買い物、20万ドンの財布を値切ったことなど、新しい挑戦が出来ました。これらは将来の自信につながると思います。そして、全国に同じ工業を学ぶ友人ができたこともとても素晴らしく感じます。今回の研修に参加できて本当に良かったです。得たことを活かしてこれからも頑張っていこうと思います。

研修への参加を勧めてくださった高校の先生方、お世話になった引率の先生方、このような機会を与えてくれた皆さん、本当にありがとうございました。

ベトナム海外研修

愛知県立名南工業高等学校
化学工業科 2年 生徒

1. 学校見学

ハノイにある HNIVC という短期大学で現

地の学生と交流会をしました。学生の方は夏休み中にも関わらず僕たちを大歓迎してくれました。最初はどのように交流すればいいのかわかりませんでしたが、スマートフォンの翻訳機能やジェスチャーを使ったら不自由なくコミュニケーションがとれました。

文化交流では、僕たちが日本から持参した竹とんぼで遊びました。最初は竹とんぼを知っている僕たちでさえ飛ばすことが難しかったのですが、身振り手振りで教えると飛ばすことができました。現地の学生の人たちが楽しそうにしているのがとても嬉しかったです。

2. ヤクルト工場見学

ベトナムのヤクルト工場は2006年に作られたばかりで従業員は60人で日本の大企業にしては少なく感じました。この工場ではラインが一つしかなく、壊れたら直すまで生産はストップしてしまいます。なので、日本でも行っている5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）という活動を徹底しているそうです。ここで作っているヤクルトを飲ませてもらいましたが、日本のヤクルトに比べたら心なしか少し甘く感じました。とても美味しかったです。



9950 本のヤクルト

3. ベトナムの交通事情

ベトナム観光を始めてまず思ったことは、バイクがとても多い事です。バイクがとても多い事は聞いていたのですが、車とバイクの割合が2：8でバイクが予想以上に多かったです。インフラはまだ追いついてなく、どこ

へ行ってもクラクションの音がひっきりなしに鳴っていました。ですが、この一週間交通事故を1度も見ませんでした。愛知県の人はこの運転技術を見習うべきだと思いました。道路を歩いて横断するときは、バイクや車が来ないのを待っていたら日が暮れてしまうので、バイクや車が来ても渡ります。そのときにゆっくり歩いて渡ります。走ってしまうと、バイクや車もよけきれません。実際に渡った時は轢かれるんじゃないかと思ってとても怖かったです。

4. 感想

今回の海外研修は僕にとって初めての海外でした。さらに団員の仲間も全国の様々な場所から集まって来ているので最初の方はとても不安でした。ですが、色々な話題で話合ったり、一緒に研修をしたりしていくにつれ不安よりも楽しみの方が大きくなっていきました。この21人の仲間のおかげで研修がより一層楽しく、思い出となることができました。この海外研修は僕の一生の思い出です。



ハロン湾でのクルージング

日本を出て

三重県立桑名工業高等学校
機械科 2年 生徒

1. ホーチミン観光

ベトナムに到着してから、3日間滞在しました。まずホーチミンに着いて自分が思ったことが、行く前に想像していたよりも暑くな

くて、驚きました。空港を出てからはベトナム特有の臭さがして、到着してからすぐに文化の違いを感じました。移動中もバイクとクラクションの多さに驚きっぱなしでした。

1日目に訪れた「水上人形劇」は言葉では上手く説明できない不思議なものでした。言葉は分からないけれど、オチが理解できた話も、いくつかあったので面白かったです。

2日目に訪れた「クチトンネル」では、昔ベトナムとアメリカが戦争中だったときの強い意思を感じることができました。



水上人形劇

2. ハノイ観光

ハノイでは、ベトナムの人とイオンモールに買い物に出かけたが、ベトナムのゲームセンターは、遊ぶときに現金を支払うのではなく、カードにチャージをしてそのカードを使って遊ぶことにとても驚いた。

6日目に訪れたハロン湾はベトナムで1番行きたかった場所だったのでとても楽しみでした。ハロン湾クルーズでは動いている船に横から違う船が近づいてくるという珍しい光景を見ることが出来ました。クルージングに食べたお昼ご飯では、カブトガニを食べることが出来ました。

3. 企業見学

企業見学では、ヤクルトのベトナム工場を見学しました。工場内の社員の方達は日本の食品工場の方と同じ様な恰好をしていて、ベトナムでも日本品質が伝わり守られているのだと思いました。工場に自分が通っている高

校にある機械と似ている機械があり驚きました。工場内見学が終わってから会議室で工場長さんのお話を聞きました。お話を聞いた中で印象に残ったのが、日本から外国に行くときには、技術だけではなく、機械を丁寧に扱うなどの当たり前のことを当たり前にするような、日本人の持つ職人魂を持って行くことが大事というお話で、実際に経験しないと分からない事だなと思いました。

4. 学校見学

初めて訪れた大学はホーチミンの、「貿易大学」で日本に興味を持っている大学生が多くいるそうで、実際にベトナム学生と交流した人たちは、みんな日本語がとても上手でした。中には日本語を勉強しはじめて、まだ数年しかたっていない人もいました。

ハノイで訪れた大学は「ハノイ工業職業訓練短期大学」で、ここはいろいろな国から出資をしてもらいさまざまな設備があった。設備の中にはNC旋盤などの工業高校にあるものもあったので、日本の工業生とあまり学んでいることは変わらないと思いました。ただ、日本だと就職してから言われる「5S」を学ぶところや、求人票が大きな看板に張り出されるところは日本とは大きく異なると思った。

5. 感想

今回の研修は初めての土地、はじめましての人たちというのはじめてばかりで、自分にとって研修前はとても不安でした。でも実際に言ってみると食べ物もおいしくとても楽しかったです。ベトナムの人たちは大学生も屋台やお店を開いている人もみんな優しくかったです。ベトナムでの買い物は、はじめは値段がよく分からなくて戸惑いました。でも値段が分かるようになってくると、値切りの交渉をしたりして、買い物も楽しかったです。

全国から集まって過ごしたベトナムでの1週間はとても楽しかったです。みんなとても優しく、今までで1番短い1週間でした。

今回の研修で学んだことは、自分が生きていく中でもう学ぶことができないことばかりでした。この貴重な体験を今後の自分の人生設計に役立てていきたいです。

最後に、今回の研修を助けてくれた人、一緒に研修に行ってくれたメンバーの人達、みなさん、ありがとうございました。



ハロン湾クルージング

海外研修中の世界

大阪市立西高等学校
情報科学科 2年 生徒

私は、この海外研修で経験したことはとても貴重なものだと思います。様々なプログラムでたくさんのことを学ぶことができました。

ベトナムの学校を訪問した際に気づいたことは、ベトナムの校舎は日本の校舎と大きな変わりはないということです。

受け入れてくれた学校の先生や、生徒の皆さんは日本が好きな人が多く、将来は貿易関係や日本とベトナム間の通訳者になりたい人などがいて良い刺激をもらうことができました。

ベトナムにある日系企業のヤクルト工場を訪問した際に気づいたことは、ベトナムに比べて日本は点検を徹底しているという事です。日本の技術者は工場の掃除をすると同時に機械の点検を行い不備がないかを確認します。ベトナムにはその習慣がないという話を聞いてなるほどと思いました。

ベトナムでの観光は主に歴史的な物や、世

界遺産のハロン湾が印象に残っています。

歴史的な物の中でも特に訪問して感動した場所は、クチトンネルです。クチトンネルでは、ベトナム戦争の時の悲惨な現実やクチトンネルの深さ、戦争に勝つための様々な工夫などを知ることができました。



クチトンネル



ハロン湾

私は、この海外研修での一番の収穫は、一期一会の大切さを知ることができたことだと思っています。これからも、様々なことに積極的に参加していこうと思います。

海外研修で学んだこと

大阪府立今宮工科高等学校
工学科 2年 生徒

1. 学校見学

学校見学では日本ではあまり経験することのできない海外学生との交流を体験することができました。ぼくは人見知りだったので、

楽しく交流できる自信がありませんでした。ですが、言葉での会話は難しかったけれど身体を使ったジェスチャーやお互いの国の文化の少しの知識だけで話が膨らみお互いにとってもとても楽しい会話になり、価値のあるいい経験になったと思います。日本からは竹とんぼをお土産として持っていき、ベトナムの学生には歌や楽器の演奏でおもてなししていただきました。それらはとてもうまく僕たち日本の学生のために必死に練習してきたのがしっかり伝わりました。僕はこの学校見学で交流の楽しさと大切さを知ることができました。



2. 企業見学

僕たちは企業見学にヤクルト工場に行きました。僕がヤクルトのことで知っていたことは、おいしいということだけでした。



ですが、ヤクルトはいろんな知識と工夫でできているものだと知りました。ヤクルトは

おいしいだけではなく、人間の身体に必要な栄養をしっかりとれる革命的な飲み物だということを、図を使って、通訳さんが丁寧に教えてくださいました。とてもためになった企業見学でした。

3. ハロン湾クルーズ

僕がベトナムで一番思い出に残っているのはハロン湾クルーズです。日本では決して見ることのできないベトナムならではの透明で美しい海や、鮮やかな緑で染まった山を、テレビの画面ではなく実際に自分の目で見ることができました。船の食事ではいままで見たこともなかったカブトガニを食べることができました。とても不思議な味だったけれど高級食材と聞いていたので完食することができました。



4. 感想

今回海外研修で学び、楽しんだことは他にもたくさんあります。どれも僕がこれから生きていくうえで大切なことでありためになったことは間違いありません。このような体験をさせてくれた関係者の皆さんや学校の先生、家族にはとても感謝しています。本当にありがとうございました。

ベトナム研修に参加して

奈良県立奈良朱雀高等学校
機械工学科 3年 生徒

1. 学校見学

ホーチミンとハノイで2か所の大学を訪問しました。ホーチミンの大学では、現地の大学生の日本語がとても上手で驚きました。また、フレンドリーで話しやすくてたくさんのコミュニケーションをとることができました。一緒にベトナムの民謡を歌うときは、発音の仕方からリズムまで細かく教えていただき、みんなで楽しい時間を過ごすことができました。ハノイの大学では、現地の大学生の方が歌で歓迎してくださり、すぐに打ち解けることができました。

施設見学ではヘルメットや安全靴の強度を試す機械があり、とても「安全」に対し気を配られていることがわかりました。私の学校でも普段から安全作業について指導されていますが、より一層「安全」に対する意識が高まりました。

これまで私は「将来海外で働いてみたい」と漠然と考えていましたが、「日本で働くためには日本語が話せるようになる」という具体的な目標を持ち準備をされている大学生に接したことで、自分の甘さを思い知ることができました。



ヘルメットの強度を試しているところ

2. 企業見学

ホーチミン市にあるヤクルト工場を訪問し

ました。ベトナム戦争の影響もあり、国民の平均年齢は28歳で、ここで働いている従業員の方の平均年齢も同じです。日本と比べると非常に若いことがわかりました。従業員数は60人（うち2名が日本人）で少人数でした。女性は全体の30%で、結婚しても仕事を辞める人は少ないそうです。また、国際規格の取得にも力を入れておられ、ISO22000（食品安全）・ISO14001（環境）・OHSAS18001（労働安全）を取得されていました。これらの規格の取得のためには、やはり日頃からの全社的努力は欠かせないということでした。ベトナムにおいても、グローバル化が進んでいることを肌で感じることができました。

3. 観光

たくさんの場所を観光しましたが、その中でも特に印象に残っているのは、クチトンネルとハロン湾クルーズです。

クチトンネルとはベトナム戦争のときにクチ（地名）の地下に掘られたトンネルのことで、南ベトナム解放民族戦線によるゲリラ戦の有力な拠点だったとされています。トンネルは大柄なアメリカ人が入ってこられないように小柄なベトナム人に合わせて狭くなっていたため、ずっとしゃがんだ状態で進みました。湿度が高いうえに息苦しく、また暗闇が続いていたため、前の人に付いて行かないと迷いそうでした。また、落とし穴などもあり少し怖かったです。当時のベトナムの人々は、過酷な環境の中で、自分の村、そして国を守るためにどれだけ大変な思いをしていたのかがよくわかりました。少しでもベトナム戦争の歴史に触れることができてよかったです。

ハロン湾は世界自然遺産に登録されているということもあり、私たちも含めいろいろな国の観光客で混雑していました。天気も良く、クルーズ船からはニワトリ岩と呼ばれる独特の岩など、他では見ることでできない景色を楽しむことができました。海上では食材や日用品、お土産などを売っている小舟が来て、中でも私が驚いたのは日本では天然記念物に

指定されているカブトガニを食用として売っていたことです。それを引率の方が購入され、その場で調理したものをみんなで食べました。その後、島の中にある鍾乳洞に行きました。中は涼しいのかなと思っていましたが実際は湿度が高く蒸し暑かったです。それでもライトアップされた光景はとても幻想的でした。



思いのほか狭いクチトンネル



向こうまで良く見えたハロン湾

4. 感想

現地日系企業の見学では、技術交流で実際に機械に触れたり、現地の工場の方から機械の説明などを聞けると思っていたのですが、製造工程の見学のみで、私が思っていたのとは違い少し残念でした。ハノイ工業職業訓練短期大学の見学では、旋盤やフライス盤などの機械を見せていただきましたが、学校の実習で私が使っている機械と比べると少し古いように感じました。

私たちが訪問した首都ハノイはベトナムの北部に位置し、ホーチミンは南部に位置する大都市でした。それぞれ、イオンモールなどの大型店舗や、日本で目にする有名ブランド

の店なども多数あり、日本の街並みとあまり変わりませんでした。私はベトナムという国は、町のあちこちに戦争の爪痕が今も残っていると聞いていたので意外でした。

今回の研修は私にとって初めての海外ということで、料理、気候、また初めて会う人たちの団体行動など不安もありましたが、心配したようなこともなくとても充実した日々でした。この8日間の体験が私にとって、この先どう生きてくるのか楽しみです。貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。

Xin cảm ơn

岡山県立岡山工業高等学校
機械科 2年 生徒

1. School tour

私たちは、この研修で様々な場所を訪問しました。学校訪問は、現地の学生と交流できる数少ない場面だったのでとても楽しみにしながらも、とても緊張していました。きちんとコミュニケーションをとることができるのか、仲良くなれるのか、不安と期待に胸を膨らませ学校へと向かいました。まず7月25日、ベトナムについて3日目に VJCC（ベトナム日本人材協力センター）、4日目に HNIVC（ハノイ工業職業訓練短期大学）を訪問しました。

VJCC では、いろいろな大学の日本語が好きな方、学んでいる方が私たちの為に集まってくださり、交流していただきました。私達からのお土産として持って行った竹とんぼは、想像以上に喜んでくださり、みんな夢中で飛ばし、盛り上がりました。そのあと、ベトナムの南部民謡を教えてもらい、一緒に歌いました。覚えるのは難しかったけれど、熱心に教えてくださり、その後テーブルごとに立って歌う際には、紙を見なくても歌えるくらいになりました。学生の皆さんとの思い出深いその曲は日本に帰国した今でもふいに口ずさんでしまうくらい胸に残っています。

HNIVC では、交流パーティーをしていただき、お土産をもらったり歌を歌ってくださったり、ゲームをしたり…。歓迎して下さっているのが分かり、とてもうれしかったです。皆さんフレンドリーな方ばかりで、緊張している私たちに近づいてきて、写真を撮ろう、と声をかけてくださったりお菓子・果物の食べ方を教えてくださったり、学校施設の見学にも付き添ってくださったり、ほんとによくしてくださいました。また、VJCC の学生さんたちとは違い、日本語を特別に勉強している方々ではないので、英語でコミュニケーションをとる必要があり、英語で外国の方々と交流したいと思っていた私としては、とても楽しく貴重な体験となりました。また、職業訓練学校ということで、旋盤など機械科の私にはなじみ深い設備などがあり、親近感を抱きました。



VJCC で現地の学生さんと

2. Company tour

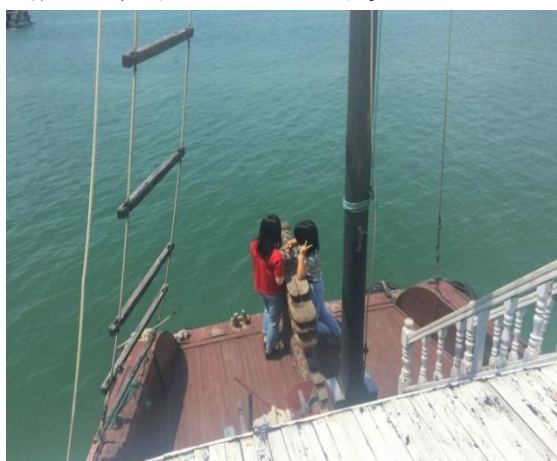
企業見学では、7月24日、ベトナムについて2日目に日系企業であるヤクルトの工場を見学させていただきました。ベトナム現地の社員であるチョウさん、日本人の社員である岩男さんに会社概要、胃腸・ヤクルトについて、工場について説明していただきました。私は、将来海外で仕事をしながら生活したいと考えているので、岩男さんのお話は大変貴重で参考になりました。



会社の説明をしてくださるチョウさん

3. Sightseeing

1週間という短い期間でしたが、様々な場所を観光させていただきました。その中でも一番心に残っているのがハロン湾クルーズです。船からの景色は、やはり日本の海とは全く違い、海外なのだと実感がわくような危険なにおいがする海でした。船も開放的で、そんな中食事をするのはとても気分が高揚しました。さらに小舟が近づいてきて、シャコやカニ・貝・カブトガニを売りに来たときは、日本ではなかなかできない体験になぜか胸がどきどきとしたくらいです。その後の人生初の鍾乳洞はとても美しく感動しました。船の上で売り子のおばさんに安く売っていただいた数珠は、毎日つけています。



ハロン湾クルーズ

4. 感想

今回、私がこの研修に参加を志願した理由はいろいろありますが、正直3万円で1週間の海外研修に参加できる機会なんて滅多にな

いから、というのもありました。私がいくら海外研修に参加したい、留学してみたい、と意欲をもっていても金銭的な面はどうにもできません。でも旅行などではなく、学習として海外に行きたいという思いや海外で暮らしたい、英語や外国語を学びたいという思いは強く、将来の進路等、どうしようと悩んでいたところ、この話を聞き、両親に話をして、許してくれ、参加を志願するにいたりしました。この海外研修は、学校見学・企業見学はもちろんのこと、観光もたくさんあり、観光を通し、ベトナムの歴史・ベトナムの人々・ベトナムの人々の暮らし・食生活にも触れ、学ぶことができました。1週間という期間ではおさまりきれないくらいの知識や、21人の仲間たちや現地のガイドさん・先生方・添乗員の岩崎さんたちとつくったたくさんの思い出、実りありすぎる1週間になりました。私がこの研修に参加するにあたり、ご協力ご支援してくださった方々、両親、先生方、現地の人々、また、研修の日々を共に過ごしたたくさんの思い出をくれた仲間たちに感謝し、この2017年の夏の1週間が私の将来に生きる様に2学期からの学校生活・私生活、真摯な気持ちで取り組んでいきたいと思います。

未来への第一歩

山口県立下関中央工業高等学校
機械・造船科 3年 生徒

1. VJCC と HNIVC へ

私は、今回の海外研修でベトナムに行くに当たって「外国の人とのコミュニケーション」の取り方を学びたいと思っていました。その為、この1週間の中で特に力を入れて取り組んだのが、このVJCC(ベトナム日本人材協力センター)とHNIVC(ハノイ工業職業訓練短期大学)で行われた交流会です。

VJCCでは、現地の大学生の方と1対1で話をするようになりました。困った事に、私はベトナム語は分からず、相手の方も日本語が分からないため、結果的に英語で会話をす

ることになりました。何とかメモとジェスチャーを駆使して、意思の疎通ができたのではないかと思います。

その後、建物の外で日本の竹とんぼで遊びました。ベトナムの学生さんも、竹とんぼをかなり気に入っていました。

HNIVC では、私達の為に素敵な交流会を開いてくださいました。ベトナムの歌やギターの演奏など、とても恰好良かったです。

次に、私達も何か日本の紹介をしようという事で「世界に一つだけの花」を歌うことになりました。突然だったため緊張しましたが、とても良い思い出になりました。



HNIVC の学生さんによる演奏

2. ベトナムのヤクルト

私達は、日系企業である「ヤクルト」の工場を見学しました。中でも、工場長・岩男様からのお話はとても現実的で、これからの進路に関わる大事なものでした。物凄いスピードでグローバル化が進んでいる現在、「世界が日本を必要としているのは何故か」。これを知るべきだと教えていただいた気がします。

3. ハロン湾

観光も勉強。とは言いますが、私達にとっては嬉しいイベントもたくさんありました。

ハロン湾はユネスコの世界自然遺産にも登録され、降龍(ハロン)という名前の通り、龍に纏わる伝説があります。私達はその湾をクルーズし、ティンクエン鍾乳洞の迫力ある鍾乳石を見学しました。



龍の形に見える…気がする鍾乳洞

4. ベトナム研修を終えて

今回の海外研修は、自分の考え方を大きく変えるものでした。日本とは違う言語、匂い、味、国の歴史からお国柄までもが違っていて、日本では感じる事の出来ないベトナムの空気を、全身で感じる事が出来ました。

この海外研修の結団式で、初めに引率の小笠原先生が仰った「何故ベトナムなのか」が、今では何となく分かる気がします。現在、ベトナムは急成長をしている発展途上国です。国民の平均年齢が28歳という若い人材。豊かな資源。手先が器用で勤勉な人が多いお国柄。これからベトナムは、益々の発展を遂げていくと思われます。

しかし、実際に国の中を覗いてみれば、貧富の差や農業の未発達。問題がまだまだ山積していると感じます。

私は造船の職業に就きたいと思っています。それは今でも変わりません。しかしこの研修で、「日本の技術」を海外に伝えることができれば素敵だとも思いました。もう一度、しっかりと自分の将来を見つめ、社会に貢献できる人になれるよう、頑張ります。



日本の企業と協力し、ベトナムでの地下鉄建設を予定しています。

また、このような素晴らしい研修会を設けてくださった全国工業高校校長協会の皆様、この海外研修に携わった全ての方々に、心から感謝を。また、これから海外に第一歩を踏み出す方々に、エールを。

高校生海外研修に参加して

愛媛県立松山工業高等学校
機械科 1年 生徒

1. 大学見学

日本の大学と変わらない、充実した施設が設けられてあり、工作機械は日本製のものが多く見られました。また、事故対策として、安全を学ぶための専用の実習室がありとても驚きました。卒業後は、教授やエンジニア、IT系産業への就職が多いようです。訪問した大学は今後、国際交流に力を入れ世界各国の大学や企業と交流することを目指しているということでした。大学生との交流では、ヴォンさんとペアになりいろいろな話をしました。ヴォンさんは日本の東京、奈良、大阪に行きたいとのことで、たこ焼きや歌舞伎に興味があり日本のことをよく知っていました。また、他の大学生も日本に憧れていて、日本語を喋ることができる学生が多かったことには驚きました。私はあまりうまく英語をしゃべることができなかったのも、しっかり英語を学ばなければいけないことを痛感しました。しかし、日本語を話すことができる学生もいたので一気に距離を縮めることができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。



工業大学生

2. 企業見学

7月24日にヤクルト株式会社を見学しました。ヤクルトの会社は海外に広く進出していて、世界38か国に展開していることに驚きました。微生物研究の医学博士の代田 稔（しろた みのもる）さんが、1930年、胃液や胆汁の消化液にも負けず生きて腸に到達し、悪い菌を退治する乳酸菌を発見して強化と培養に成功し、それが後に[乳酸菌シロタ株]と呼ばれるようになりました。美味しい乳酸菌飲料として商品化をし、1935年に乳酸菌飲料「ヤクルト」の販売がスタートし今に至ったそうです。現地の会社員の方は、代田さんをととても尊敬しているそうで、日本人として誇りに思いました。また、1日に3万本近くを製造ライン1本だけで製造していることに驚きました。故障しないためには、毎日掃除を行い機械の状態を細かく把握することが大切ということでした。

3. 観光

市内観光では、統一会堂、中央郵便局、市場、市外観光では、ハロン湾 鍾乳洞、クチトンネルに行きました。クチトンネルは、ベトナム人の身長に合わせた低いトンネルで、ベトナム戦争の時に、大柄のアメリカ人が入れないように工夫されており、高さが1m、幅約50cmで、日本人の私でも通るのが大変でした。総全長は約250kmもあり、戦争に勝利した一つの要因とされています。

私が特に記憶に残っているのが、ハロン湾のクルージングと鍾乳洞です。



ハロン湾

よく晴れて非常に暑かったですが、船からは断崖絶壁の山々が並ぶ素晴らしい風景に感動しました。

鍾乳洞はライトアップされていてとてもきれいでした。また、交通渋滞とバイクの数の多さ、車間距離の短さに驚きました。

4. その他

食事については、美味しい料理もありましたが、パクチーやココナッツ等の日本ではあまり口にしない独特なものもあり日本食の美味しさを再認識しました。一番美味しいと感じたのはフォーです。フォーは一緒に旅行した日本人の多くが気に入ったようで、みんな美味しいと言って食べていました。



フォー

最近は大規模ショッピングモールのイオンもオープンしたので、B&Sの学生と食事やショッピングを楽しみました。果物や野菜は見たことのないものが多く販売されており、面白かったです。

ホー・チ・ミンさんのお墓に行きました。ホー・チ・ミンさんはベトナム社会主義共和国を成立させた人で地名にもなっています。現地ガイドさんによると、きれいなミイラで保存されていて、いつも混雑しているので、数秒しか見られないそうです。時には3時間待ちになることもあるそうです。

5. 感想

今回の海外研修で、多くの貴重な体験をす

ることができました。このように日本中の工業高校の生徒と交流することができる機会は二度とないと思うので、多くの友達と学校のことや将来の夢などについて話をしました。全国で頑張っている仲間と話をすることによって、自分も何事にも前向きに挑戦しなければいけないことを学ぶことができました。

私の将来の夢は、海外で航空整備士になることです。今回このプログラムに参加した理由は、この夢に少しでも近づくために国際的な視野を身に付けたいと思ったからです。企業見学では、日本の企業が現地で貢献している場面を直接見ることができ、自分も何事にも一生懸命取り組んで頑張れば夢は叶うことを学び、励まされました。

歴史学習では戦争の悲惨さやベトナム人の勇敢さを感じることができました。最近、私たちの周囲でもいろいろな国の争いの話をよく耳にします。私を含めて日本人は、歴史の勉強と世界の平和のために何をすべきかしっかり考えていかないといけないと思いました。

最後に、全国の工業高校の友達と1週間近く生活し、いろいろな体験や学習をすることによって、自分をより成長させ、世界の広さと日本の良さを目と体で感じるすることができました。また、私の性格が少し積極的になってきたと思います。今後はこの経験を生かして、何事にも積極的にチャレンジをして自分の夢の実現のために努力していきたいと思います。

このような機会を与えてくださった方々に感謝しております。ありがとうございました。

海外研修を終えて

熊本県立球磨工業高等学校
建築科 3年 生徒

1. 学校見学

現地の2校の大学に訪問しました。

まず、ホーチミンにあるVJCCに行きました。日本語学校だったので、現地の学生がとても日本語が上手でコミュニケーションをうまくとることができました。ベトナムの南部

民謡である Lý Cây Bông（リーカイボン）という歌を教えてもらいました。ベトナム語の発音が独特で難しかったのですが、教え方が上手だったので、楽しく覚えられました。日本からのお土産として竹とんぼを持って行き、一緒に遊びました。とても喜んでもらえたので私も嬉しかったです。滞在時間が短くて、もっと話をしたいと思いました。

次に、ハノイにある HNIVC という職業訓練短期大学に行きました。パフォーマンスやプレゼントなどで歓迎してくれました。竹を地面にたたきながら、その上を通る遊びで盛り上がりました。その後、実習棟の見学をしました。壁には5 S活動（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の看板があちこちにありました。また、機械は日本と同じものを使っているもありました。実際にネジなどのものづくりをしているそうです。ベトナムも日本と同じく、5 S活動や実習の内容など共通のことが多く、実践を通したのものづくり教育をされていて驚きました。日本と違うところは、日本では就職してから学ぶようなことを学んでいる、ヘルメットや安全靴の耐久性の実験や、サイズと重さの異なる箱を持って、その重量を当てるなどの楽しく学べる内容がありました。より実践的な実習をされており、日本の専門高校でも、技術的な学習ばかりでなく、楽しくて実践に生かせるような実習をしてもいいかもしれないと思いました。



HNIVCの学生

2. 企業見学

日系企業のヤクルト工場に行きました。実

際にベトナムで売っているヤクルトを試飲させていただきました。日本と味が変わらなかったのが驚き、工場の人に聞いてみると、原料は全て日本から持ってきているそうです。さらに、工場にある機械も全て日本製のものをベトナムへ持ってきているそうです。わざわざ日本から輸入していることに驚きました。工場長の岩男様に様々な話をしていただいた中で、海外で働くことについて興味を持ちました。まず、英語を話せること、そして、日本人の心（几帳面さ）です。それは、掃除がこまめで丁寧なところや、間違いに敏感なところなどです。それだけでなく、日本では当たり前に行っていることを海外で実践すると、多くの面で役に立つと思いました。日ごろから、日本人らしい振る舞いを今のうちに究めようと思います。



世界のヤクルト

3. 観光

ハノイのハロン湾が一番印象に残っています。世界遺産だけあってとても綺麗でした。船の中で食事をしました。追加の注文でカブトガニを皆でいただきました。日本では食べられないものなので、いい経験になりました。船の周りの海面には岩がたくさんあり、写真では味わえない景色だと思いました。鍾乳洞にも入りました。中に入ると思ったよりも広く、とても神秘的でした。

ベトナムの大学生と一緒にイオンに行きました。ベトナムにも日本と同じイオンがあるとは思いませんでした。大手ゼネコンの大林組が建設したそうです。たくさんの日系企業

が海外に進出して、頑張っているなと感じました。内部も日本のものと似ていました。また、大学生に尋ねると、日本製のものに関心があり、丈夫で長く使えると人気だということでした。しかし、日本製は高いので中国製をよく買うそうです。高いけど品質が良いのは日本製のいいところだと思います。

4. 感想

この研修では、普通の旅行ではめったに感じられないことがたくさんありました。現地の学生との交流、ヤクルトの工場見学、観光の他にも書ききれないくらいの思い出ができました。朝から夕方までスケジュールがビッシリで、とても内容の濃い研修期間を過ごせたと思います。

外に出ると噂通りバイクが多かったです。ベトナムは発展途上国ですが、思っていたよりも栄えているように感じました。そして、日本語が話せる人が多いことに驚きました。また、ベトナムで自動車を購入するときの税金が価格の200%以上でかなり高いため、自動車を買える人は少なく、バイクしか買えない人が多いそうです。また、農業に関しても、農作物の価格が安いので、あまりお金にならないなど、いまだに貧富の差が激しいことに驚きました。そこを改善していく必要があると感じました。

この研修では、現在のベトナムの経済状況や学校での生活、海外の日系企業で働く様子も見ることができました。私がこれから働くことについての考えがより深くなり、今後の目標実現に向けて、専門の建築や英語もそうですが、表現力や感受性などの私に足りない部分を深めたいです。

研修に行く前は、海外でもアジアは危険で近代的なものがないイメージを持っていました。しかし、実際は、気をつければそんなに危険ではないし、都市の中心部になるとビルがたくさんあり、現地の方と話をしてみると積極的で日本人にはない魅力があると感じ、アジアの人々に対する見方が変わりました。

日本では学べないことが得られ、これからの私にとってよい経験になりました。行く前と帰国後、私の中で進学・就職に対する気持ちや世界観などが変わったと思います。

海外研修に参加でき、全国工業高等学校長協会の方はじめ、各方面での関係者の皆さんに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



女子全員集合！

ベトナム研修を通じて感じたこと

長崎県立島原工業高等学校
機械システム科 2年 生徒

1. ホーチミン市到着

到着日は、さほど日が照っておらず過ごしやすい気候でした。ホーチミン市に着いて目に入ったのは、日本では考えられないほど多いバイク、そして日本企業のオフィスでした。ベトナムは、世界でも国民の平均年齢が若いほうなので、とても勢いがあるように感じました。



ホーチミン市内を走るバイク

2. ホーチミン市内観光

ホーチミン到着後、市内観光として統一会堂、中央郵便局、聖母マリア教会、人民委員会庁舎、そして水上人形劇の観覧をしました。

統一会堂は南ベトナムの旧大統領官邸だった4階建ての建物です。建物内は赤と金を基調とした装飾が施されており、元大統領の趣味にまつわるものや、地下指令室などがありました。

中央郵便局は、外壁が黄色くとても可愛らしい建物でした。建物内の奥にはホー・チ・ミンさんの大きな絵が飾られていました。

聖母マリア教会は、絵本に出てきそうな、レンガ造りの大きな建物でした。教会の中に入ることはできなかったので入って見たかったです。

人民委員会庁舎は、目の前にホー・チ・ミンさんの像がありました。この建物はホーチミン市人民委員会の本部として利用されているそうです。

水上人形劇の観覧は、水と人形、音楽が織りなす人形劇で、人形たちの動きのリアルさは圧巻でした。

3. 現地日系企業見学

現地日系企業見学として、ホーチミンのヤクルト工場を見学させていただきました。ヤクルトのBOP戦略をはじめ、ヤクルトの歴史、ヤクルトの体内での働き、ヤクルトの生産工程を学ばせていただきました。この工場には、60人の従業員がおられ、その中で日本人の方は2人しかいらっしゃいませんでした。しかし、日本人が当たり前だと考えているメンテナンス前の掃除や5S、QCなどを大切にする日本の精神を、ベトナム人従業員の方にも教育していることがわかりました。

4. クチトンネル見学

クチトンネルは、ベトナム戦争中に対アメリカ軍用に作られた地下トンネル網です。中には、作戦会議室や医療施設などがあり、実際の入口はアメリカ軍兵が入れないようにと

でも小さいものでした。また、空気穴は虫穴に似せ、周りにコショウやトウガラシを置くことで、軍兵や軍用犬に見つからないようにしていたそうです。他にも、あらゆる所に落とし穴を作り、軍兵を落として武器や食料を奪っていたそうです。さまざまな工夫で戦っていたことがわかりました。

5. 学校訪問

学校訪問では、VJCCでホーチミン市貿易大学の学生の方と交流をしました。最初に自己紹介を行い、雑談をした後に竹トンボで遊び、最後にベトナムの民謡をいっしょに歌いました。大学生の皆さんはとても日本語が上手だったので、会話する中で困ることはありませんでした。竹トンボは、意外と飛ばすのに苦戦しましたが喜んでくれました。最後にベトナムの民謡を歌いましたが、日本にはない発音ばかりでとても難しかったです。短い時間でしたが、現地大学生の方と交流できたことはとても思い出になりました。

6. 歴史博物館見学

歴史博物館は、ベトナムの歴史、民族についての展示物がたくさんありました。たくさん紙幣やお墓、像などがありました。ベトナムは何度も侵略され、人の像の頭部がとられていたりしていました。また、昔のベトナムの家が日本の合掌造りに似ていたことにはとても驚きました。

7. ハノイ市到着

ハノイ市はベトナムの首都で、文化と政治の中心になっているそうです。ホーチミン市に比べハノイ市は少し穏やかな雰囲気でした。

8. 学校訪問

ハノイ市では、ハノイ工業職業訓練短期大学を見学させていただきました。セレモニーから始まり、学生の方の出し物などをして、竹トンボで遊びました。竹トンボをプレゼントするととても喜んでくれました。そのあと、

学内の施設を見せていただきました。学内の設備には、自動車整備、安全教育室やNC工作機械、旋盤などのさまざまな設備がありました。日本とのつながりとして、旋盤や検定を学ぶために、ベトナムの学生や先生を日本へ派遣させるそうです。



ベトナムの5S標語

9. B&S プログラム

B&S プログラムとして、日本語を学んでいるベトナムの女子大生の方と、ベトナムのイオンを見て回りました。班に2人の学生さんがいて、そのうちの1人は長崎に来たことがあるということで、嬉しく思いました。イオンモール内では、スーパーを見たり、アイス専門店のようなところでお茶を楽しみました。短い時間でしたが親睦を深めることができたので良かったです。

10. ハロン湾クルーズ

ハロン湾は、ベトナムの世界遺産で、海面からいくつもの岩がそびえ立っていました。食事をしながらクルージングをしていると、小さな船に乗った方が魚介類や果物を売りに来ました。売り物の中にはカブトガニがいて、すごく衝撃的でした。実際にカブトガニを食べてみましたが、言葉では言い表せないような味だったので、ぜひ一度は食べてみてほしいです。ハロン湾の中にある鍾乳洞も見ましたが、いろいろな色のライトが当てられていてとても幻想的な空間でした。



ハロン湾内の鍾乳洞

11. ハノイ市内観光

ハノイ市内観光として、文廟、ホー・チ・ミン廟、一柱寺、玉山神社、ホアンキエム湖を見ました。

文廟には、孔子を祀る目的で建てられました。約600年前に作られた石碑は、ベトナム最古の大学の卒業名簿のようになっており、1306人の名前が刻まれているそうです。

ホー・チ・ミン廟は、大理石で作られており、ハスの花を型取っているそうです。中には、ホー・チ・ミンさんの遺体が安置されているそうですが、休日だったため見る事ができず残念でした。

一柱寺は、ハスの花を模して建てられたそうです。昔は、木造だったそうですが修復し、コンクリート造りになったそうです。

玉山神社・ホアンキエム湖は、広い湖とその上に立つ神社で、玉山神社は玉山祠とも呼ばれていて、元の侵攻を撃退した将軍が祀られているそうです。大きな亀が展示されており、衝撃的でした。

12. バッチャン村見学

バッチャン村は、ベトナムを代表する陶器、バッチャン焼きの窯がたくさんある村で、工房の見学や、絵付け体験ができました。女性の方が絵付けをしていましたが、繊細な絵柄をあっという間に描き上げていたので技術の高さを感じることができました。

13. 感想

私は今回のベトナムでの海外研修で、たくさんのことを学びました。また、なぜベトナムで海外研修が行われるのかという理由としては、ベトナムが日本の戦後のように活気に充ち溢れ、これからの経済成長に期待されているからだと思います。ベトナムは、国民の平均年齢が若く、勢いがあるように感じました。日本だけでなく世界各国が注目する意味がわかったような気がします。

今回の海外研修に参加するにあたって、私はたくさんの方々に支えていただきました。支えてくださった方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。また、今回の海外研修を共にしたメンバーは、私にとって一生大切な存在です。初めてのことばかりだったこの海外研修は刺激的で最高に楽しいものでした。日本とは異なる文化の中で過ごした約1週間は、私にとって間違いなくかけがえのないものです。この経験を生かして、これからもいろいろなことに挑戦し続けたいと思います。

研修を通じ、このような貴重な体験の場を与えてくださった、全国工業高等学校長協会事務局をはじめ、長崎県工業校長会、関係の先生方に感謝申し上げます。また、出会った全ての皆様に感謝しています。ありがとうございました。

海外研修で得たもの

大分県立中津東高等学校
生産システム科 2年 生徒

1. 大学見学と現地大学生との交流

今回の研修では、VJCC（日本人材協力センター）とHNIVC（ハノイ工業職業訓練短期大学）の2つの大学に行きました。

ハノイの大学では実際に大学生と交流しました。最初の歓迎セレモニーでは歌を披露してもらいました。歌はとても上手く、感動しました。こちらからは、日本のお土産として、竹とんぼを渡し、一緒に飛ばすことで交流を深めることができ、とても楽しかったです。

大学内も見学しました。実習室には、自分の学校と同じような旋盤をはじめ、設備がとても充実していると思いました。

私が「日本で何をしたいですか」と質問すると、「寿司を食べてみたい」という答えが返ってきました。彼らは日本にとっても興味を持っていると感じました。そして、日本語も勉強しており、日本語の流暢さにも驚きました。大学生の中には将来、日本で仕事をしたいと言われている方もいました。チャンスがあれば、今度は私が日本の有名な場所を案内したり、日本の文化を伝えたりしたいと思いました。



VJCCの学生

2. ヤクルトのベトナム工場を見学

ヤクルトの工場では、案内役のチョウさんの説明でヤクルトの歴史や効果・効能について教えていただきました。ベトナムでは2007年から輸入販売を始め、同時進行で工場を建設し、2008年に工場が完成したそうです。ヤクルトの味は、世界共通と聞いた後に僕たちも飲みましたが、味は日本と同じでした。容器はすべてリサイクルでされていることも知りました。工場内にはヤクルトの歴史を書いた資料室があり、そこには昔の容器を展示しており、日本の事も沢山書いてありました。ベトナムの工場の社員は、全員大卒で、研究室も整備されており、菌について研究していると聞きました。工場長の岩男さんの話はとても勉強になりました。岩男さんは日本人で今までたくさんの海外で働いてきたとおっしゃっていました。

中でも、5 S活動（整理・整頓・清掃・清潔・躰）にはとても力を入れているそうです。やはり5 S活動は世界中、大切にされていると感じました。それと、英語は話せた方が良くとおっしゃっていました。僕も岩男さんのように海外で活躍できる人材になりたいです。



ヤクルト工場のチョウさん

3. 観光

ベトナムの観光では、統一会堂や国会議事堂、クチトンネルや世界遺産のハロン湾、そこにある鍾乳洞にも行きました。

クチトンネルには、戦争の際に地下で暮らすために作られたトンネルや部屋がありました。部屋はいくつかに分かれていて、作戦会議をする部屋や看護室などがありました。落とし穴には、鋭い鉄棒があり、落ちると串刺しになる仕掛けでした。実際にトンネルの中は、とても狭く身をかがめた状態でしか歩けなくて、その途中にベトナム戦争の時を再現した模型がありました。ベトナム戦争について今までは教科書で勉強した程度の知識しかありませんでしたが、今回の研修で実際に目にする事ができて、戦争の悲惨さ、ベトナム戦争の歴史、当時の生活などを知ることができました。とても勉強になりました。

ハロン湾のクルーズでは、大小 3,000 もの島々が存在し、その中を船で観光するのは、とても迫力がありました。クルーズ船の上での食事や、そこから見たとても綺麗な景色が印象に残っています。

今回の研修で私が一番驚いたことは、バイクの数です。ベトナムでの移動手段はバイクが主で、家族で4人乗りをしたり、にわとり

をバイクに縛り付けて運転する光景に、つい見とれてしまう程でした。



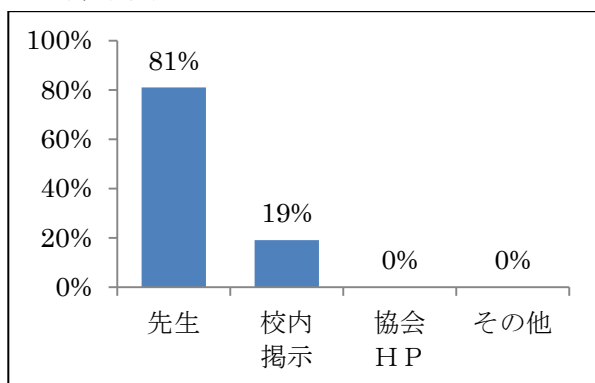
ハロン湾のクルーズ

4. 最高の仲間たち

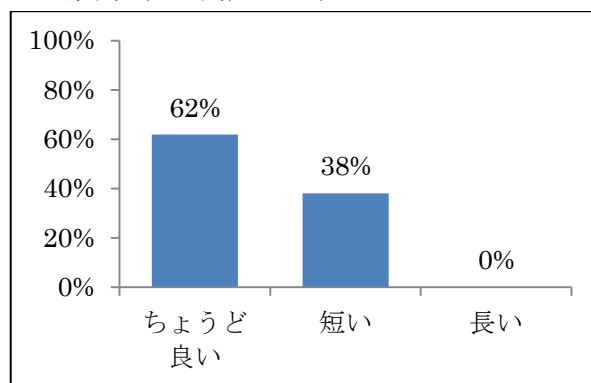
今回のベトナムの海外研修は全国から22人の高校生が集まりました。私は海外旅行が初めてだったので最初はとても緊張していました。でもすぐにみんなと仲良くなり、学年や男女分け隔てなく楽しく過ごすことができました。1週間、知らない人たちと生活するのはとても不安でしたが、あっという間に時間が過ぎ、みんなと生活するのはとても楽しかったです。この仲間たちと共に学び過ごすことができ本当に良かったです。みんなでもた一緒に集まる約束をし、最後にお別れをする時は、離れることがすごく悲しくなり涙を流しました。今回の研修に参加しなければ知り合えなかった仲間たちに心からありがとうと伝えたいです。こんな機会を与えてくださった全国工業高等学校長協会の方々、推薦してくださった学校の先生方、両親に感謝したいです。そしてこの素晴らしい経験を、これからの人生の糧にしていき、将来に役立てたいと思います。今回の研修は私にとって貴重な体験となりました。私は今回の研修でベトナムが大好きになりました。また、価値観も変わり、視野が広がったと思います。本当にありがとうございました。

8. アンケート結果

1. 海外研修はどこで知りましたか？

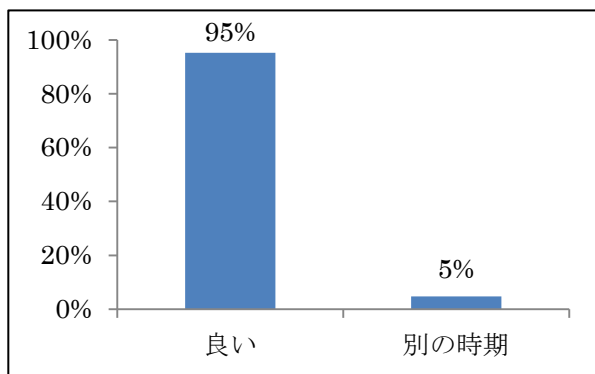


2. 期間（7日間）はどうでしたか？



【短い】10日間希望—2人、12日間希望—1人
30日間希望—1人

3. 時期はどうでしたか？

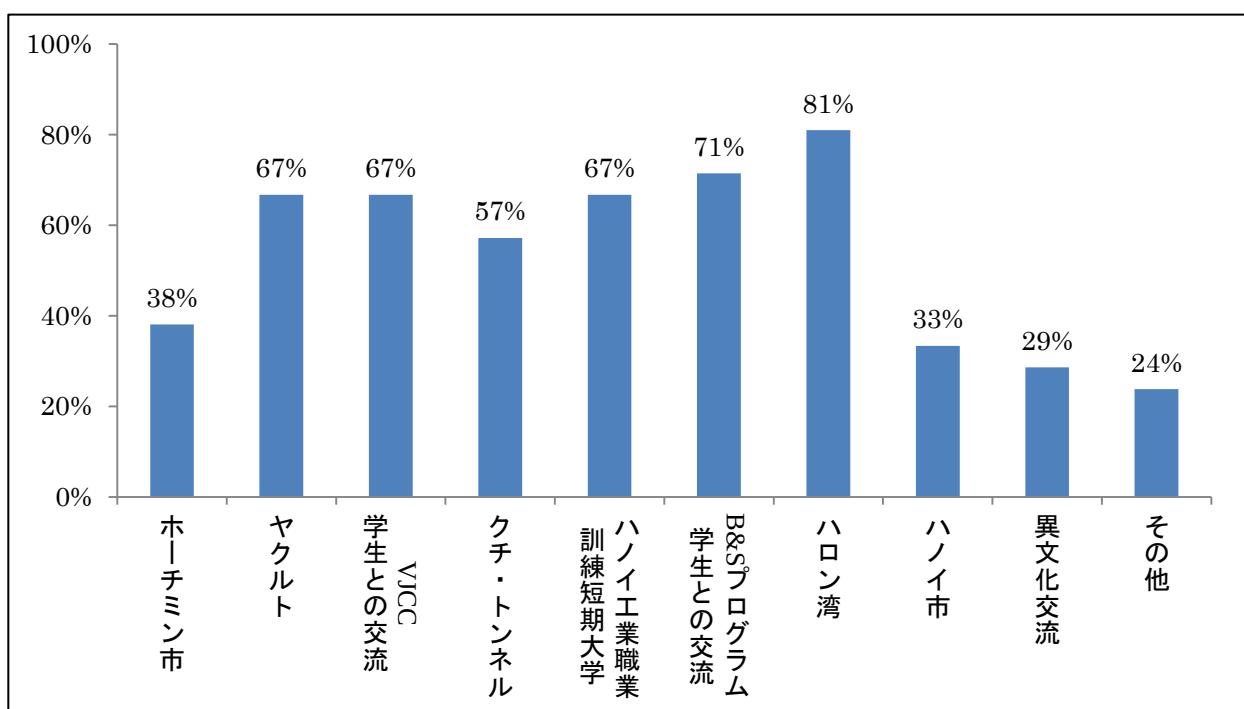


【別の時期】10月頃希望—1人



ベトナム学生と交流

4. 訪問先で良かったところをお答えください（複数回答可） ※次ページに訪問先ごとの感想



—① ホーチミン市について

- ☐ おしゃれな街並みが見られて良かった。
- ☐ ホーチミン市の活気あふれる様子を体感し、ベトナムがエネルギッシュな国だと理解できた点。
- ☐ 色が全体的にきれいだと感じた。
- ☐ 色々な所をまわって様々な体験をすることができたから。
- ☐ とてもにぎわっていた。
- ☐ 郵便局が日本とは違いすごかった。
- ☐ 初めての値切りをした。良い経験になった。
- ☐ 日本とは違った気候や街並みが興味深かった。

—② 企業見学（ヤクルト）について

- ☐ 現地の方の生の声と経験を聞け、今自分達に必要な力（当たり前前を当たり前にする力）を教えていただいた。
- ☐ 日本でも見る企業が海外でも頑張っていることがわかった。
- ☐ 現地で働く日本人の方に、どうしたら海外で働けるかなど具体的に教えてもらえた。
- ☐ 現地で働く日本人とベトナム人の方のお話しの両方を伺えたこと。
- ☐ ヤクルトを飲みたい気分になった。
- ☐ 日本人としてのこれからの働き方について考えることができた。
- ☐ ヤクルトが海外に進出していると知ってびっくりした。
- ☐ 外国での日本人の扱いやベトナムの人の様子を知ることができ、気になったことも質問ができた。
- ☐ ベトナムの商品工場は日本とどう違うのかなどを知れたから。
- ☐ しっかり考えて質問することを学んだ。
- ☐ 日本の企業の様子。
- ☐ 現地で働く日本の方の話はためになった。
- ☐ 日本の習慣を取り入れた技術があり、今も向上していたこと。
- ☐ ヤクルト工場の生産ラインやヤクルトの腸内での働きを学べた。

—③ VJCC 訪問（学生との交流）について

- ☐ 学生さんの日本語が上手で交流しやすかった。
- ☐ 自分の英語がどれだけ通じるか？ということが良くわかった。
- ☐ 連絡先の交換など日本でも異文化との交流ができる手段を得られた点。
- ☐ 竹とんぼの説明を英語でできた。
- ☐ ここの学生は本当に日本人よりも真面目なのではというくらい本当によく勉強していた。
- ☐ 竹とんぼで遊び交流を深めた。
- ☐ 現地の学生さんと仲良くなり、歌と一緒に歌った。
- ☐ 竹とんぼを通してベトナム人と仲を深めたり歌を歌ったりと楽しい時間だったから
- ☐ 一期一会。
- ☐ ベトナム人の友達ができた。
- ☐ 英語で交流することができ楽しかった。
- ☐ 授業の英語会話でどのくらい話せるのか分かった。
- ☐ 英語で海外の学生と親しく交流できた。
- ☐ 自己紹介から始まり、雑談や竹とんぼで遊んだり、ベトナムの伝統民謡を歌った。

—④ クチトンネルについて

- ☐ ベトナムがどのように戦っていたのか、学校では学べないことも分かった。
- ☐ ベトナム戦争中、人々がどのような暮らしをしているのかを知ることができた点。
- ☐ ベトナム戦争を生き抜き勝利に導いた知恵と生き抜く力を学べる。
- ☐ 激しい戦争を戦い抜いたベトナム兵たちの知恵と技術をタンタンと感じた。
- ☐ 穴が小さく兵隊さんの苦労がほんの少しだけ分かった。
- ☐ 狭く暗いトンネルにワクワクし盛り上がった。ベトナム戦争で使われたものを見られた。
- ☐ 戦時中のベトナム人のすごさと賢さなどを知って、見ることができたから。
- ☐ ベトナム戦争について詳しく知ることができました。
- ☐ 戦時中のベトナムの歴史は、今のベトナム

に影響していることが分かった。

□戦争の苦しさや大変さを改めて知った。

□クチトンネルができるまでの経緯から、クチトンネル内に入る。

□ベトナム戦争について知ることができた。

—⑤ ハノイ工業職業訓練短期大学について

□ベトナムの工業生の実態が知れて良かった。

□学生さんのおもてなしが丁寧だった。

□学長さんがとても親切で、とても楽しかった。

□日本とベトナムの大学で学ぶ課程の違いが気付けた点。

□歌を熱唱した。

□旋盤など学校で学んでいることと似ているし、歓迎会が楽しい。

□ベトナムの男性は日本人に比べると積極的でびっくりしてしまう。そして、切り替えも早い。

□工業系の勉強をしているのを知ってもっと知りたいと思いました。

□大学生の方と交流した。大学ではどのようなことを学んでいるか知った。

□ベトナムの短大のことや、職業のことを知ることができたから。

□ハノイの工業の様子について知ることができました。

□見たことのない装置や現状が知れて良かった。

□大学だったのであまり見ないものが多くあり興味深かった。

□セレモニーの後、歌やダンス、竹とんぼをして施設内の案内、見学。

—⑥ B & S プログラム（学生との交流）について

□お互いの国のことや文化を交流することができ、連絡先を交換し合い大切な仲間を作ることができた。

□イオンの中で一緒に行動したり会話できて、学生さんがどんなことを頑張っているかがわかった。

□交流を通し、ベトナム人の気質や、なぜ日本語を勉強しているのかなどがわかった。

□互いの文化を紹介し合い、理解し尊重し合えた点。

□可愛い大学生とゲームセンターで遊んだ。

□ゲームは万国共通で楽しい行事だなと思う。ゲーセン、最高！！！一緒に体を動かすのが良いね。

□笑顔が素敵な大学生たちと1時間半ゲーセンで遊んだのが思い出に残りました。

□他の交流より近い距離で大学生の方と交流できた。

□ベトナムの大学生との買い物でベトナムの学生のことを知れたこと。

□一期一会。

□話すだけでなく、一緒に買い物をする中でより距離が縮まりました。

□なかなか話すことができず四苦八苦したが、語学・コミュニケーションの良い勉強になった。

□短時間で仲のいい友人を作ることができ、食事もしめた。

□日本語を学ぶベトナム人学生とイオンでショッピングやお茶など。

□VJCC よりも交流の時間が長かったし、たくさん話せたと思う。

—⑦ ハロン湾について

□日本の景色とはまた異なった素晴らしい景色を見ることができ、現地の方々の生活や神秘を感じ取ることができた。

□世界遺産というのはめったに見る機会がないので、見ることができ良かった。

□世界遺産であり、クルーズができたから。

□今まで生きてきた中でも相当綺麗で不思議な景色だった。

□豊かな自然に身を置き、普段あまり体感できない自然の雄大さを感じ取れた点。

□世界文化遺産でユネスコに登録されていて絶景。クルーズを楽しめる。

□鍾乳洞が言葉を失うほど美しかった。次回も必ず連れていくべきと思います。

- 鍾乳洞を初めて見て、私は偉大なパワーをチャージしました。
- 絶景のハロン湾や鍾乳洞を見た。
- 世界遺産を訪れることは中々ないので、とてもいい体験ができたから。
- 絶景の景色が見られて良かった。
- 様々な国から観光に来るだけあり、とてもきれいでした。
- ハロン湾のクルーズはもちろん、鍾乳洞もきれいで楽しかった。
- 世界遺産の鍾乳洞は美しく、良い思い出を残せた。
- 全てが美しく、海外の初世界遺産訪問で、伝統や地名の意味を知ることができた。
- ハロン湾のクルージング及び鍾乳洞の見学。
- 世界遺産を見られて良かった。とてもきれいだった。
- すごくきれいだった。

—⑧ ハノイ市について

- 活気のある街を目で見て、ベトナム人の気質や考え方の一部を感じ取れた点。
- 美しい民芸品を多く見ることができたのが良かった。また、絵付けが体験できたのが嬉しかった。
- ホーチミン市より交通がきちんとなっていた。
- バッチャン焼きの体験が楽しかった。
- 伝説のある場所や国宝はベトナム人の価値観そのものだった。
- 中華街や国宝を見ることができ、あらゆる知識を吸収した。

—⑨ 異文化交流について

- はっきりと、今までの自分とは物事の捉え方が変わった。
- ベトナム人の暮らし方、私のあこがれに近いです。
- バッチャン焼きの絵付け体験をした。
- あまり話せないベトナム語をちょっと話すだけで、笑って相手をしてくれるベトナム人の優しさを知ることができたから。

- 日本にはない文化というのはとてもおもしろく、もっと知りたいと思った。
- バッチャン焼き、短期大学のダンス等、海外の貴重な体験ができた。

—⑩ その他

- ホーチミン市を担当したチンさん、ハノイ市を担当したトンさん、二人のバス内でのお話は本当に私の宝です。全部録音させていただきました。鬼リピします。
- お土産を安く多く手に入れることができた。
- ホテルの部屋割りを、日本とホーチミン一緒にしてもらったこと。
- 移動中のガイドさんの説明に感じるものが多く思った。
- 日本とは異なった街並み、料理の味付けです。

5. 意見・感想

- 語りつくせないほどたくさんの方の大切なことを学べた研修だった。何よりもこの22人のメンバーに出会うことができて本当に良かったです。
- 企業見学とB&Sでは自分のこれからの生き方や今の自分に足りないものを見つけることができた。
- 今回こうして多くのことを学べたのは、全工協会や引率してくださった先生・旅行会社の方々、そして、学校の先生や親のおかげです。本当にありがとうございました。
- 学んだことを発信し、世界で活躍するエンジニアになれるよう全力で勉学に励みたいと思います。
- 水の配布が多すぎるかもしれません（自分は3本も余りました）。
- 事前に自己紹介文を書いてもらうと良いかもしれません。
- 竹とんぼの数が少ないと思います（今回、50本）
- この研修が始まるまでずっと緊張と不安でいっぱいでしたが、始まってみると気の許せる友達ができ、プログラム全てが楽しく、と

でも良い経験になりました。本当に参加できて良かったです。この研修に関わってくださった全ての人に感謝しています。ありがとうございました。

□8日間は長いと思っていたが、1日1日が充実していたため時間の経過が早く感じました。

□世界遺産や日本とは違う街並みが見られて勉強になり、楽しかったです。

□全国から集まった人地と交流することで、日本でも違うことがあるのだとわかりました。

□高校生の時にこのような体験ができて良かったです。

□学生さんとの交流で竹とんぼも良いが、折り紙や紙風船なども行った方が、日本の文化や遊びがわかると思う。

□最初は心配だったけど、周りの人がとても明るくて楽しかった。一部はどうかと思ったが、大体の人は誰とでも気さくで楽しい時間だった。心配から楽しさに変わって、あっという間の8日間だった。出会えた仲間を大切にしていきたい。ありがとうございました。

□行く前よりも、行った後の方がベトナムに行きたいと感じた。

□海外旅行に行くことで得られる、日本との違いや経験の重要性を改めて実感した。

□ハノイ工業職業訓練短期大学での生徒との会話が少し足りなかったという印象を受けた。

□すべてにおいて満足することができた。その中でもホーチミンの中の散策は、旧市街を歩くときにバスから見ただけでは感じることはできないベトナムの生きた雰囲気を感じることができたことは非常に意義深く、博物館の見学はベトナム語やベトナム史の新たな学びのきっかけになったと思う。今後もぜひ体験型のスケジュールを組み込んでほしいと思う。

□またこのメンバーで集まれることはもうほとんどないだろうと思うが、何とか関係は良好なまま残し、今後の人生で良きライバル・仲間として交流できればと思う。

□今回学んだことは帰国してからすぐに役立

つものは少ないが、将来を考えると非常に有効なことであると気付いた。全国で20人強という限られたワクの中で研修に参加できたことを誇りに思い、今後の人生の中で生かしながら、自分の周り、ひいては世界において活躍・貢献していければ最高だ。

□先生方へ、Xin cảm ơn ——ありがとうございました——

□この経験を生かして他の海外にも行きたいです。

□またハノイに来て、現地の学生と遊びたいです。

□今回はとても貴重な研修に参加できて良かったです。全国の工業生とも話すことができ、そして学び知ることができました。

□海外は初めてでしたが、ベトナムであった人たちが優しくほっこりするのをまた行きたい、もっと学びたいと思えました。

□もう少し時間に余裕を持って行動した方が楽しめるし学ぶことができると思った。7日間でしたが、ベトナムに慣れてきて、そして学ぶことの楽しさを知ってすぐに帰ってしまうので、また全国の人達との仲ももっと良くて、そして協力したいから、もう少し長くても良いかなと思った。

□とても楽しく学ぶことの多い研修でした。ありがとうございました。

□次回研修を受ける学生さん達へ、何でも良いからベトナムのことが書いてある本を（歴史でもガイドブックでも小説でもなんでもいいので）2冊読んでから来ると、最高の気づきがあると思う。

□簡単な年表を持たせると、途中からスイッチが入る生徒にとっては最高だと思う（年表には余白を多めにとる）。

□ベトナムドン、日本円、ドルの為替相場を把握して店員さんの電卓を打つ手をよく見とくとかばったくられない。あと、商売関係なくお話をしたら実はとても素敵な人たち。最後に寄った店では、ドルからベトナムドンに計算し直すとき、大きめの数字を掛けていたけど、店員さんはそれが間違った数字だという

ことを知らなかった。悪気がない人もいる。

□初の海外研修はベトナム。この夏ベトナムは 40℃以上あると思っていました。しかし、思ったより暑くなく耐えることができました。最初の方はご飯が口に合わず 1 週間やっていたか不安でしたが、1 日経つにつれご飯も食べられるものが増えていきました。

□この研修に参加した目的、それはたくさんの人に出会うためと海外の文化や日常を知るためでした。今となれば十分に目標達成できたと思います。「出会いがあれば別れがあるもの」、この言葉を胸に次の出会いを求めて今回体験したことを生かしていこうと思います。

□第 17 回の海外研修のメンバーが大好きです。将来会えることを楽しみに、明日からまた笑顔 No. 1 で行きたいと思います。本当にありがとうございました。シンチャオ！

□今回の研修ではびっくりするほど多くのものを得ることができました。新しい仲間や新しい知識はこれからとても大事にしていきたいと思います。将来工業に貢献できるよう、この経験を生かしていきたいと思います。

□お土産などを研修前に買ってない人は、2 万円は持っていくといいと思う。

□朝食、昼食、夕食の間にあまり運動をせず、移動時間が多いので、ご飯を残してしまうことが多かった。

□はじめは、研修がどんな感じが分からなく、空港までも 1 人で来たのでとても怖かったけれど、感想を書いている飛行機の中で、今、僕は一緒に 1 週間いた仲間と離れ離れになってしまうのがとても怖いです。感想を書いて楽しかった時間を思い出してしまっ、泣き出しそうです。このメンバーで海外研修に行けたことはとても良かったです。今回の研修はずっと楽しかったです。

□1 つだけ不満があるとすれば 1 週間は短すぎました。もっとみんなと一緒にいたかったです。この 1 週間のことは絶対に忘れることはできないと思います。

□生徒だけでなく、先生方、ツアー会社の方、現地のガイドさん全員が、とっても優しく楽

しかったです

□最後にホテルに泊まる日の夜には、深夜を過ぎるほどしゃべっていたりもして、本当に帰りたくないな、と思いました。1 週間前の結団式はとても前のように感じるのに、ベトナムに来てからの 1 週間はとても早く終わっていきました。もっと早くに仲間に声をかけ、仲を深めれば良かったと思います。帰りの飛行機に乗るまで、まだこの研修は続くのだと、まだ終わりじゃあないと考えていました。でも飛行機に乗ってしまったら、あと数時間で終わりがきて、みんないなくなってしまうという現実を感じました。本当に帰りたくないです、でも終わってしまいます。過去ばかり見ても仕方がないので、未来の自分にとって何かを結べるように、今回の研修で学んだことをしっかりと生かしたいです。

□最後に、いつもきたない字でもしっかりと日誌を見てくれた先生、進路のことについて相談にのってくれた先生、日常のことを話してくれた先生、今回の研修中、分からないことを分かりやすく教えてくれたツアーガイドの人、とても嬉しかったです。1 週間ありがとうございました。

□私はこの研修から、本当にたくさんのことを学びました。全国から 22 名の人が集まってきて、共に学び、それぞれの地元に戻り、それぞれの人生を生きていくと思うと、少し不思議に感じます。一期一会という言葉を深く考えた時間でした。

□この海外研修に参加した生徒全員が参加して良かったと思います。もっともつこのような研修が増えれば良いなと思いました。

□この経験は、今後の人生において、必ず役に立つと思います。この経験を活かして、自分や他のこれから出会う人、家族の人生において良い方向に進ませていこうと思いました。

□短い時間でしたが、中身の濃い時間でした。

□おもしろかった。

□初めての海外研修で不安と期待でいっぱいでしたが、行ってみると楽しい友達とも出会うことができ、ベトナムの文化や工業にもふ

れることができました。ベトナムの友達もできてとても良かったです。短い間でしたが、ベトナムに来ることができてとても良かったです。社会に出たらまた何らかの機会でベトナムを訪れたいと思います。

□初対面の人たちと海外研修ということで、とても緊張していたのですが、皆さん親しみやすい人たちばかりで、充実した日々を過ごすことができました。現地の方々にも良くしていただいて本当に良かったです。またすぐにでも行きたいくらいです。

□この海外研修は自分の将来のイメージを作る良い機会になりました。このお話を聞く前は外国なんて考えたこともありませんでした。しかし、ベトナムで1日を過ごすごとに自分の世界観が変わっていく気がして、少しだけ度胸がついたように思います。日本に帰ってもこの経験を生かして、より国際的な感覚、英語力を鍛えて、これからの社会の流れに負けない人間になりたいです。

□私1人の足では立ち入る勇気はなかったですが、今回は1度きりのチャンスだと思い参加しました。悔いのない一生に残る体験となりました。

□夏の雨季だったため湿度が高く少々過ごしにくかったがやりがいがあった。

□何故ベトナムだったのかが分かった様な気がします。今のところ、人生の中で1番役立つ重要な経験になったと思います。将来に役立つ大切なツールになると思います。

□初めのうちは自分が全く知らない人との交流に不安で胸がいっぱいだった。しかし、実際にベトナムで一緒に行動するうちに皆が大切な存在になっていった。

□ベトナムで異文化に触れて、産業のグローバル化を強く感じた。ベトナムで自分とは言葉も国の様子も全然違う方々と出会い、想像以上の刺激を与えられた。今回の海外研修で少しは視野が広がったと思うし、人間として成長できたと思います。

□初日の時は皆と話せるか不安で、1週間が長いと思っていました。しかし、時間がたつ

につれて皆とも仲良くなっていき、日に日に楽しくなりました。

□ベトナム人のマイペースさやバイクの多さ、お金の使い方などのベトナムの文化にどんどんと慣れていきました。ベトナム料理は別です。日本食が恋しくなります。日本が改めて好きになったし、これからも海外に行ってみたいと思いました。

□この海外研修で学んだこと、体験したことは、海外に行った時やこれからの人生に必ず役に立つと思います。

□とても良い経験になった。



9. 結びに

第17回海外研修は、参加生徒22名（男子13、女子9、引率教員2名、事務局1名）で予定どおりに実施できました。参加者はじめ、ご支援いただいた保護者・学校関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。

今回もブログを開設し、引率の小笠原先生のきめ細かな対応で研修中の様子がリアルタイムでわかり、参加者のご家族や学校関係者にとっては、安全・安心への情報提供になったと思います。

本協会の海外研修は、第1回～10回がオーストラリア、第11～15回までがカナダ・アメリカで実施してきましたが、第16回からは地理的に比較的近く、経済発展の著しい東南アジアに研修先を変更しました。第17回は、前回に引き続きベトナム社会主義共和国を訪問しました。夏の時期に熱い東南アジアを訪問することは、肉体的にも負担が大きかったと思いますが、感想やアンケートを見ますと大学や企業の訪問、ベトナム戦争の戦跡や世界自然遺産のハロン湾の見学、現地学生との交流など、とても充実した研修ができたことがわかります。

東南アジア諸国には日本企業が数多く進出しています。中でもベトナムは、治安も比較的安定しており、近年目覚ましい経済発展をしている親日的な国でもあります。今回の研修で活気あふれるベトナムの雰囲気を感じられたと思います。

世界中でテロや紛争が起こっており、国際社会の政治情勢が不安定な状況にありますが、同時にあらゆる分野でグローバル化が進み激動の時代を迎え、工業だけでなく様々な分野において海外で活躍できる人材が求められています。このようなことから今後の海外研修については、国際化事業推進委員会を中心に多くの皆様からご意見をいただきながら工夫改善していきたいと考えます。

この海外研修は、参加した生徒の皆さんにとって高校時代の多感な思春期の海外体験として貴重な機会であったと思います。それぞれの高校生活及びこれからの人生に役立つことを期待するとともに参加した皆さんの今後の活躍を心から祈念します。

（この報告書は、本協会のホームページにも掲載します）



国際化事業推進委員会委員

委員長 笹原 哲也（藤沢工科高校長）
委員 野崎 一哉（市川工業高校長）
山本 康義（三郷工業技術高校長）
鴻野 誠（中野工業高校長）
早川 信一（多摩工業高校長）

事務局 山田 勝彦（全工協会事務局長）
石井 末勝（全工協会事務局次長）
引率 鴻野 誠（中野工業高校長）
小笠原 裕文（豊田工業高校）